

亀山市男女共同参画に関する市民意識調査
調査結果報告書

平成 23 年 8 月

亀 山 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
(1)	回答者属性	2
(2)	男女共同参画社会について	5
(3)	家庭生活について	6
(4)	男女平等について	8
(5)	子育てについて	12
(6)	健康・介護について	15
(7)	就労について	17
(8)	ワーク・ライフ・バランスについて	26
(9)	ドメスティック・バイオレンスなどについて	30
(10)	社会参加について	42
(11)	男女共同参画社会の実現に向けた取り組みについて	45

I 調査の概要

1 調査の目的

「第2次亀山市男女共同参画基本計画」策定にあたり、現在の男女共同参画の進捗状況を確認するとともに、市民の男女共同参画に関する意識や生活について意見を伺い、計画策定の基礎資料とすることを目的としている。

2 調査対象

市内在住の満18歳以上の男女から無作為抽出

3 調査期間

平成23年6月17日から平成23年7月11日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
1,474通	740通	50.2%

6 調査結果の表示方法

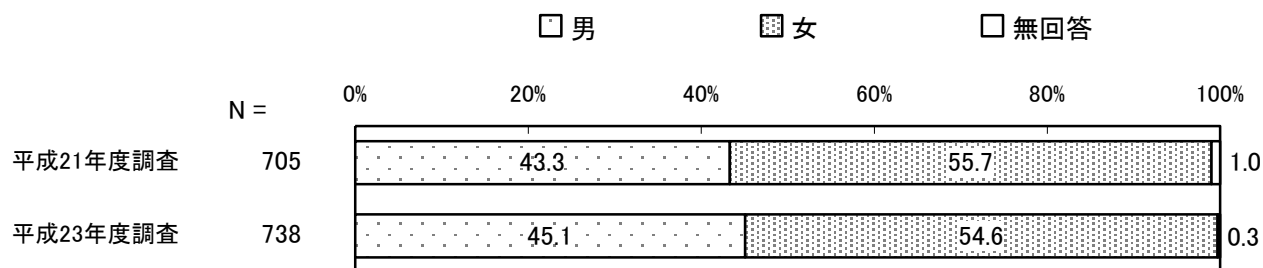
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。

II 調査結果

(1) 回答者属性

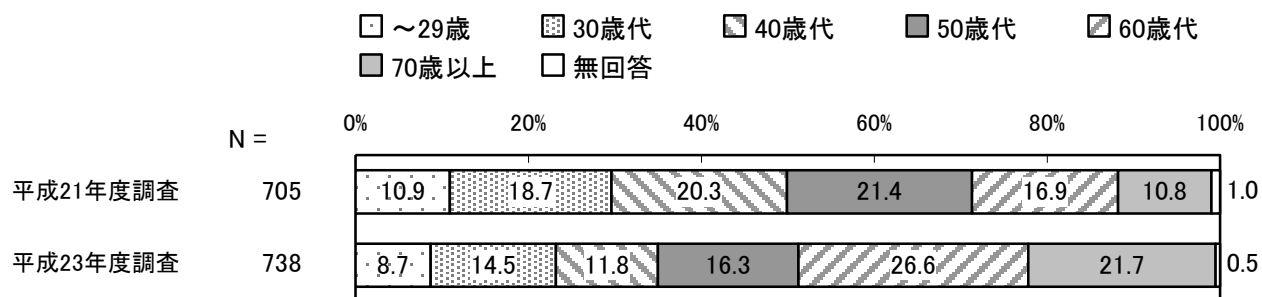
問1. あなたの性別をお答えください。次の中から選んで○印をつけてください。

「男」の割合が45.1%、「女」の割合が54.6%となっている。



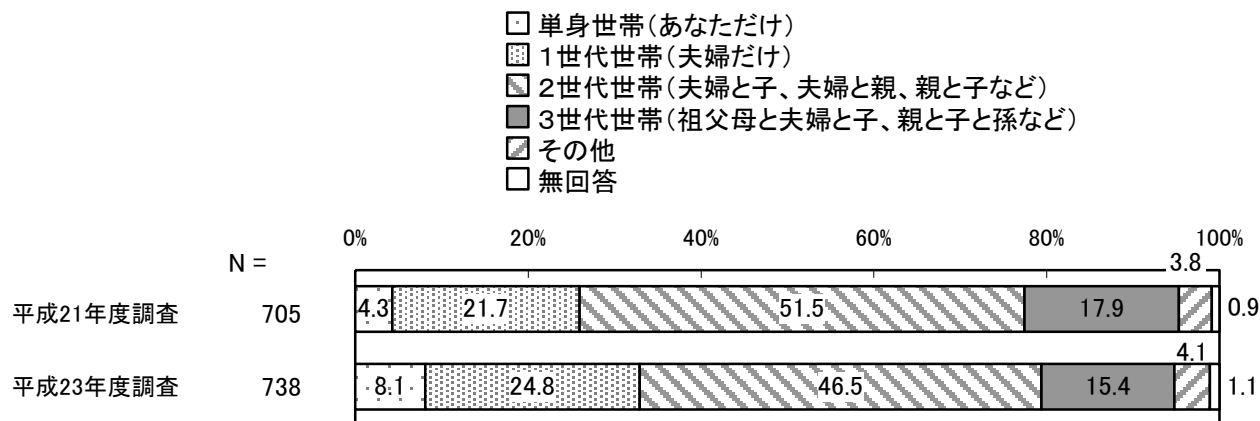
問2. あなたの年齢をお答えください。次の中から選んで○印をつけてください。

「60歳代」の割合が26.6%と最も高く、次いで「70歳以上」の割合が21.7%、「50歳代」の割合が16.3%となっている。



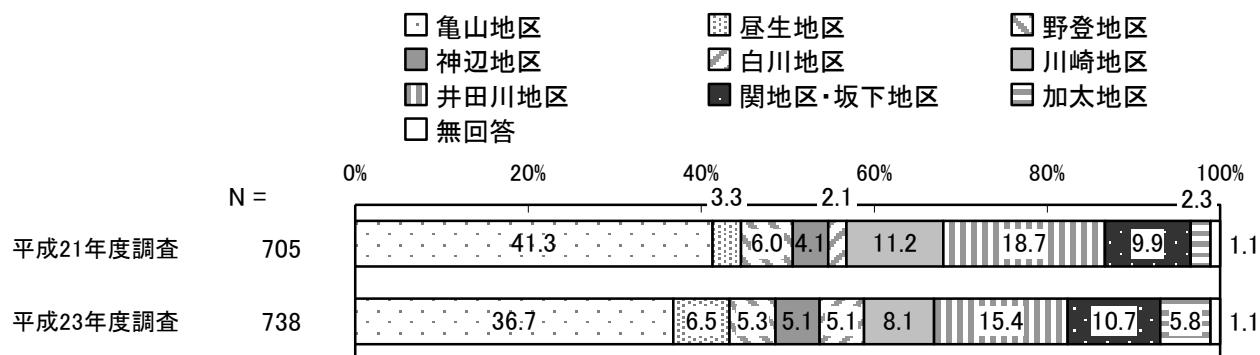
問3. あなたが現在生活しているご家庭の家族構成をお答えください。次の中から選んで○印をつけてください。

「2世代世帯（夫婦と子、夫婦と親、親と子など）」の割合が46.5%と最も高く、次いで「1世代世帯（夫婦だけ）」の割合が24.8%、「3世代世帯（祖父母と夫婦と子、親と子と孫など）」の割合が15.4%となっている。



問4. あなたのお住まいの地区をお答えください。次の中から選んで○印をつけてください。

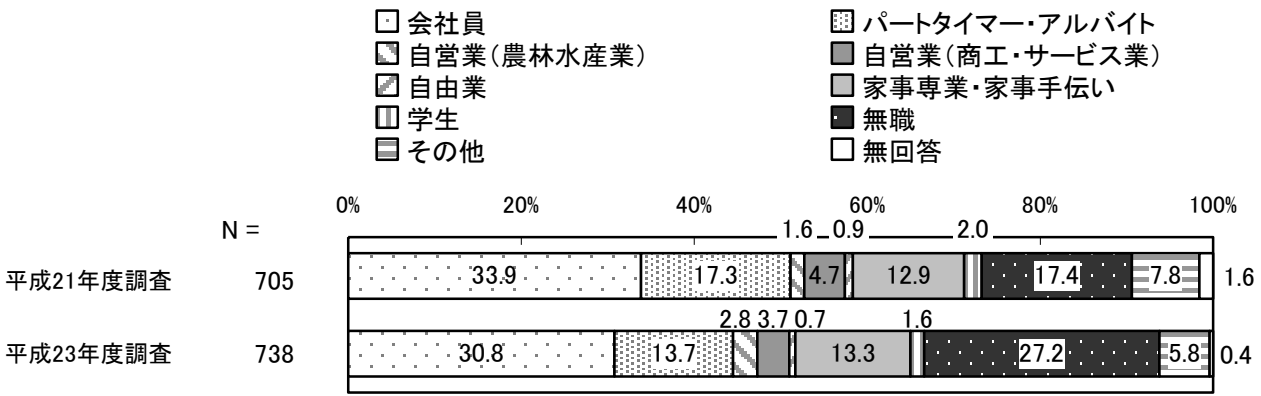
「亀山地区」の割合が36.7%と最も高く、次いで「井田川地区」の割合が15.4%、「関地区・坂下地区」の割合が10.7%となっている。



問5. あなたの職業をお答えください。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

「会社員」の割合が30.8%と最も高く、次いで「無職」の割合が27.2%、「パートタイマー・アルバイト」の割合が13.7%となっている。

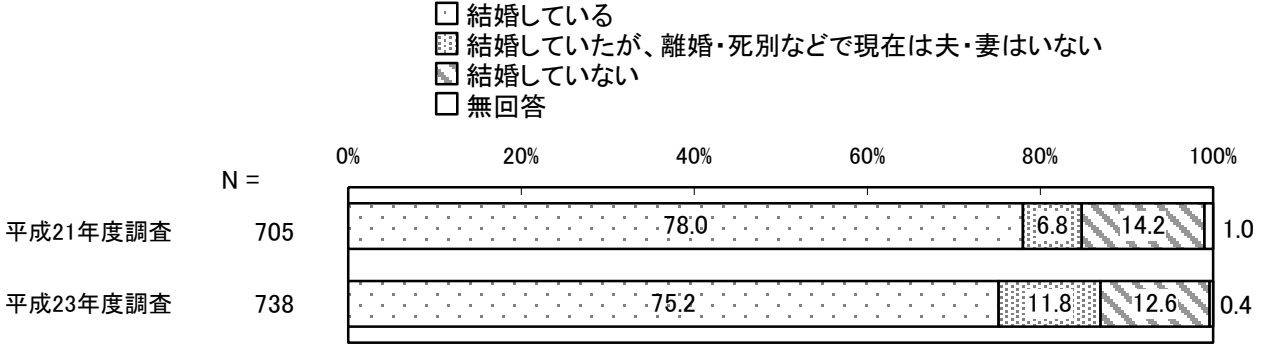
前回調査と比較すると、「無職」の割合が高くなっている。



問6. あなたは結婚していますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

「結婚している」の割合が75.2%と最も高く、次いで「結婚していない」の割合が12.6%、「結婚していたが、離婚・死別などで現在は夫・妻はいない」の割合が11.8%となっている。

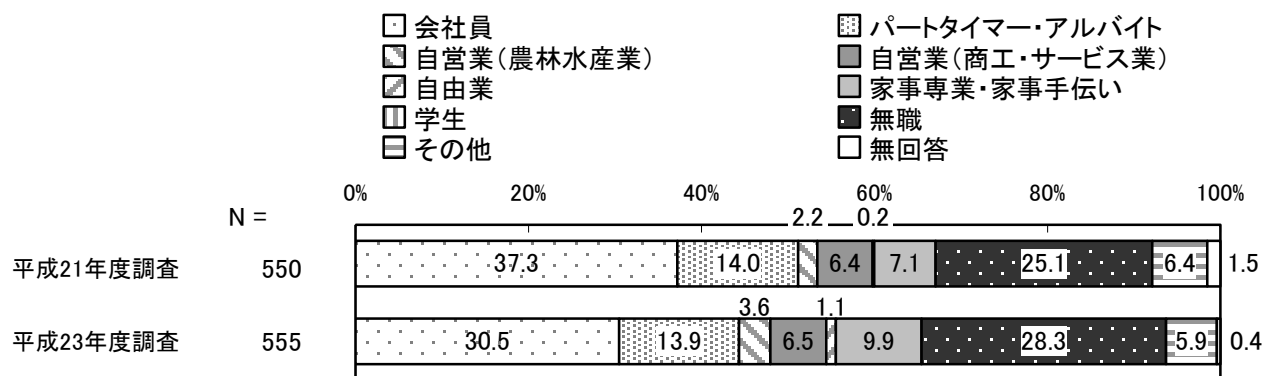
前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。



問6-1. 問6で「1. 結婚している」と答えた方にお聞きします。あなたの配偶者の職業は何ですか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

「会社員」の割合が30.5%と最も高く、次いで「無職」の割合が28.3%、「パートタイマー・アルバイト」の割合が13.9%となっている。

前回調査と比較すると、「会社員」の割合が低くなっている。

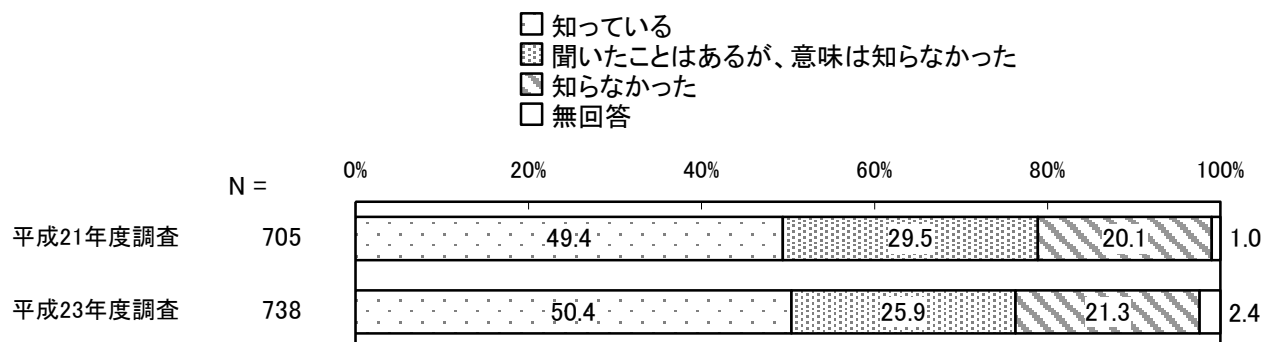


(2) 男女共同参画社会について

問7. あなたは、「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

「知っている」の割合が50.4%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」の割合が25.9%、「知らなかった」の割合が21.3%となっている。

前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。



(3) 家庭生活について

問8. あなたの家庭では、家庭生活について、男女の間でどのように分担していますか。
①～⑬のそれぞれについて、1つずつ選んで○印をつけてください。

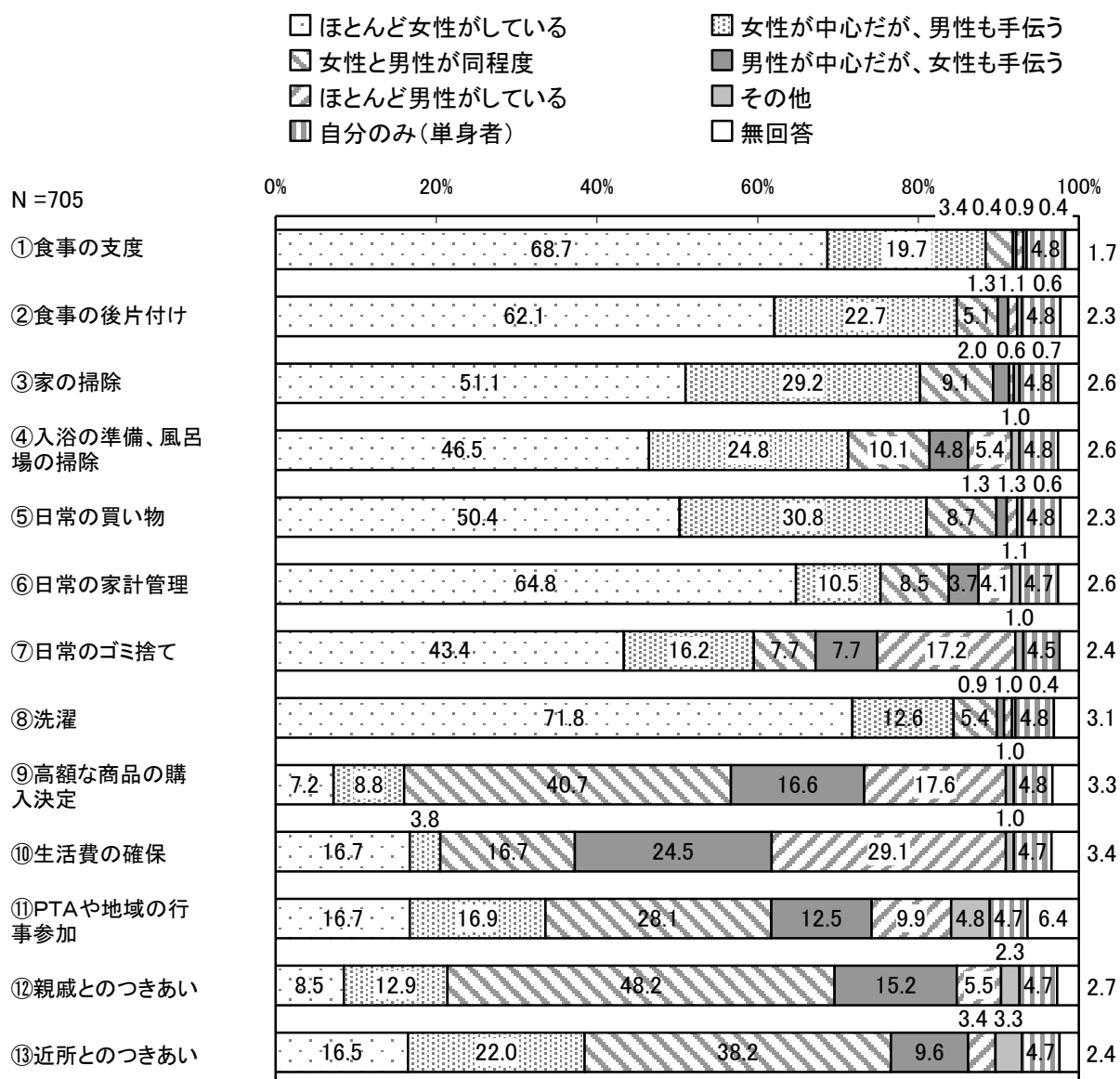
「①食事の支度」「②食事の後片付け」「③家の掃除」「④入浴の準備、風呂場の掃除」「⑤日常の買い物」「⑥日常の家計管理」「⑦日常のゴミ捨て」「⑧洗濯」では、「妻・パートナー」の割合が最も高く、特に「①食事の支度」「⑧洗濯」で約7割を占めている。

「⑨高額な商品の購入決定」「⑩生活費の確保」では、「夫・パートナー」の割合が最も高くなっている。

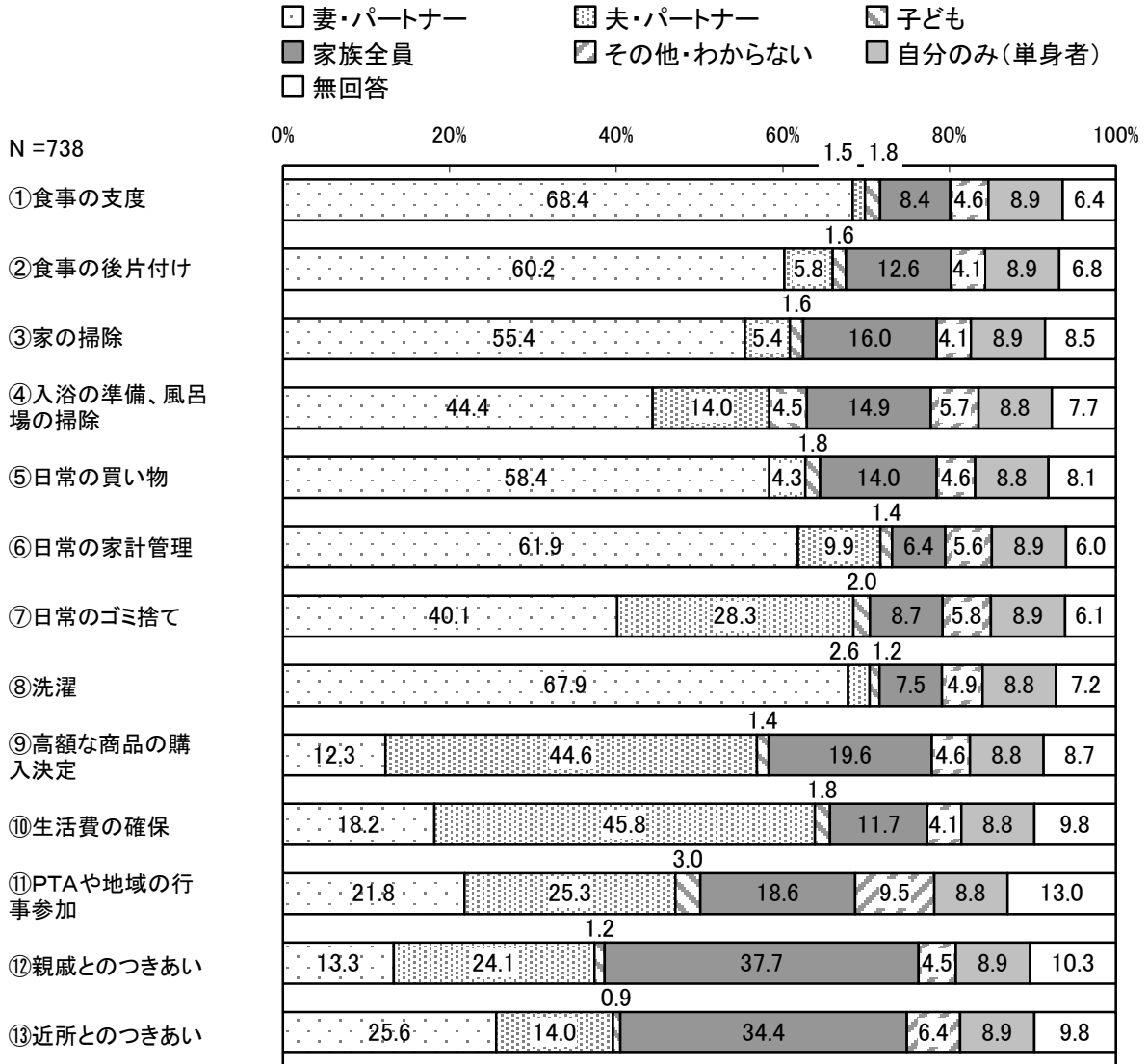
一方、「⑫親戚とのつきあい」「⑬近所とのつきあい」では、「家族全員」の割合が最も高くなっている。

前回調査と比較すると、「⑨高額な商品の購入決定」で、前回の「男性が中心だが、女性も手伝う」「ほとんど男性がしている」をあわせた割合に比べ「夫・パートナー」の割合が高くなっている。

【平成21年度調査】



【平成 23 年度調査】



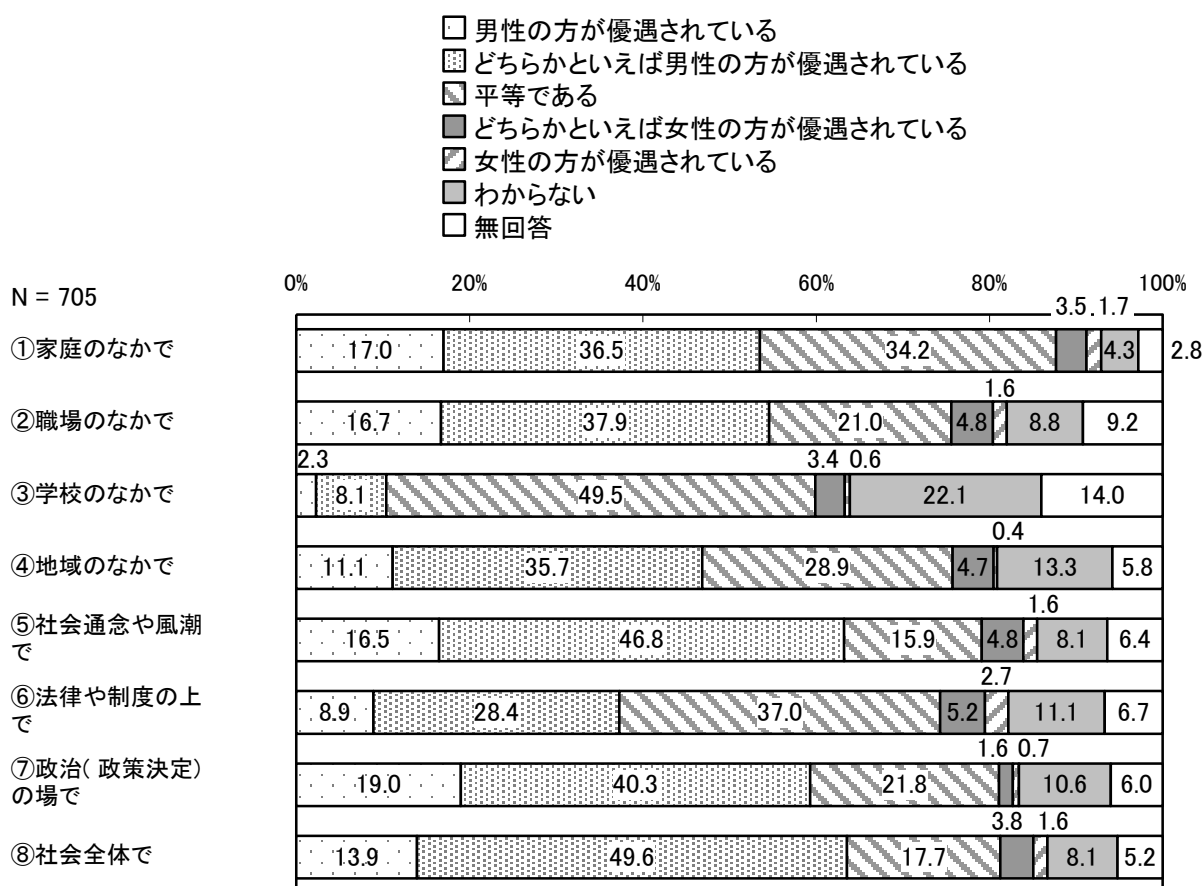
(4) 男女平等について

問9. あなたは、次の分野において男女の地位が平等になっていると思いますか。
①～⑧のそれぞれについて、1つずつ選んで○印をつけてください。

「③学校のなかで」では、「平等である」の割合が最も高く、41.5%となっている。それに対し、他の分野ではすべて「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”と思う人の割合が高くなっており、特に「⑤社会通念や風潮で」「⑧社会全体で」では6割を超えている。

前回調査結果と比較すると、「②職場のなかで」「⑦政治（政策決定）の場で」で“男性の方が優遇されている”と思う人の割合が低くなっている。

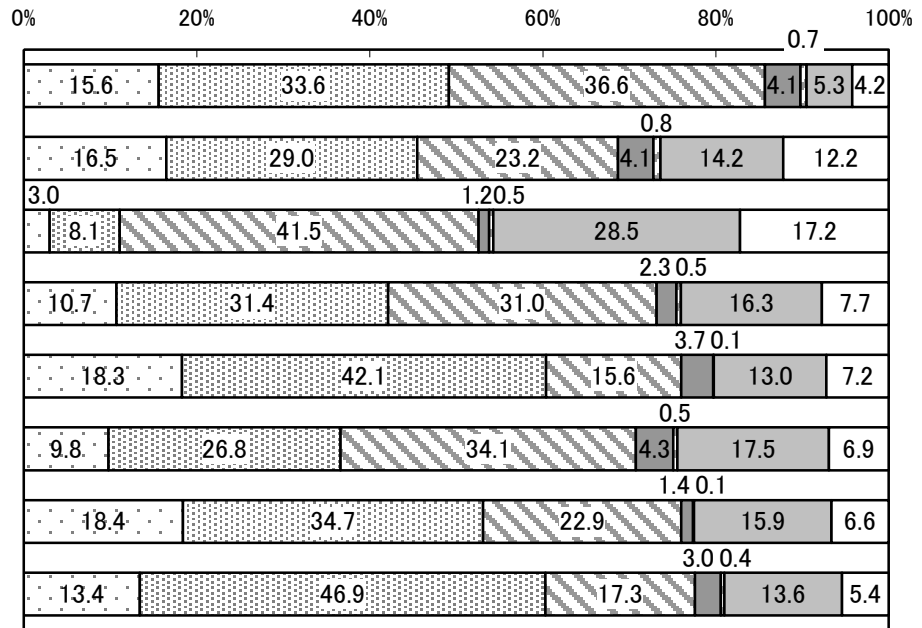
【平成 21 年度調査】



【平成 23 年度調査】

- 男性の方が優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が優遇されている
- わからない
- 無回答

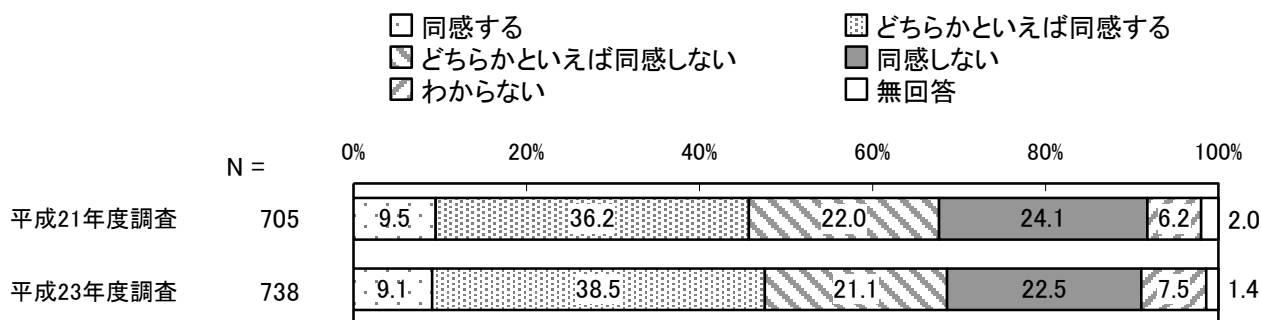
N = 738



問10. 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

「同感する」と「どちらかといえば同感する」をあわせた“同意する”の割合が47.6%、「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」をあわせた“同意しない”の割合が43.6%となっている。

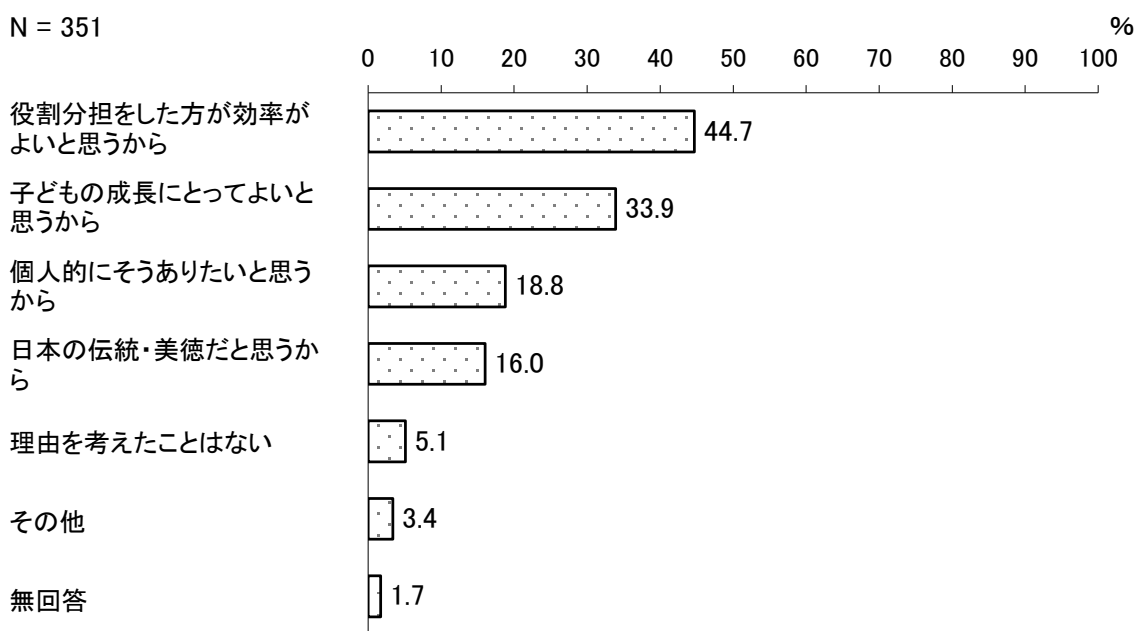
前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。



問10-1. なぜそう思いますか。同感する人、同感しない人それぞれ、あてはまるものすべてを選んで○印をつけてください。

【「1. 同感する」「2. どちらかといえば同感する」と答えた方】

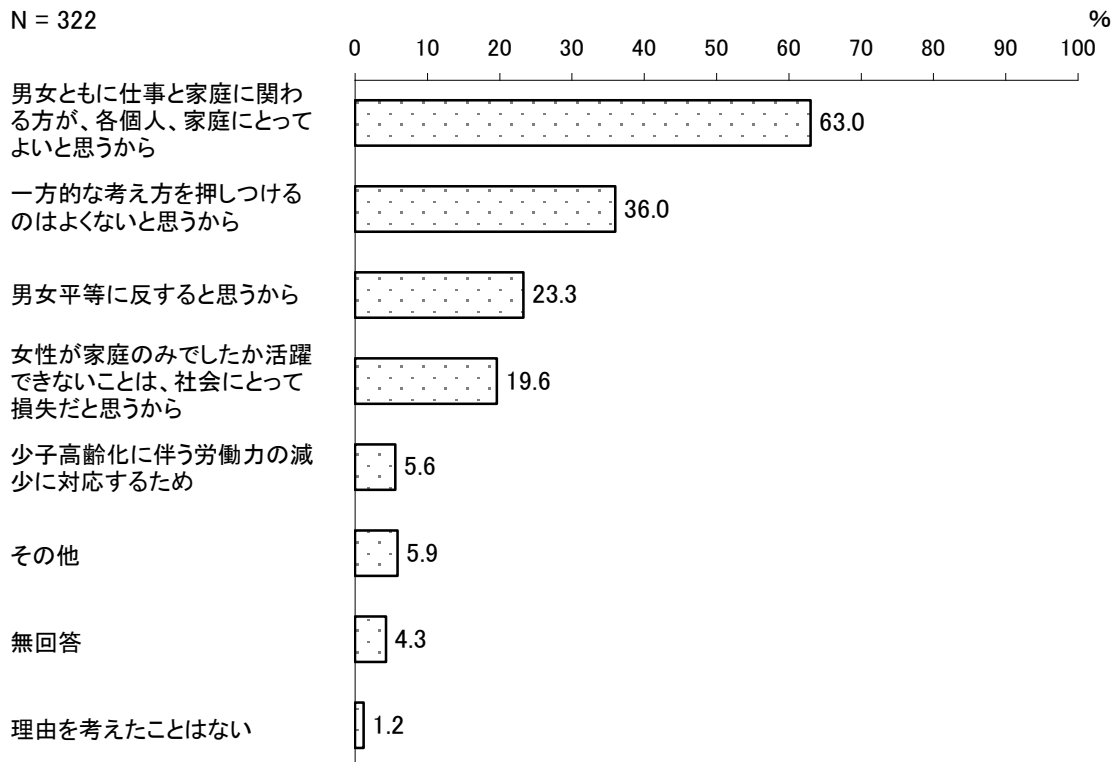
「役割分担をした方が効率がよいと思うから」の割合が44.7%と最も高く、次いで「子どもの成長にとってよいと思うから」の割合が33.9%、「個人的にそうありたいと思うから」の割合が18.8%となっている。



※平成21年度調査には該当設問はありません。

【「3. どちらかといえば同感しない」「4. 同感しない」と答えた方】

「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思うから」の割合が63.0%と最も高く、次いで「一方的な考え方を押しつけるのはよくないと思うから」の割合が36.0%、「男女平等に反すると思うから」の割合が23.3%となっている。



※平成 21 年度調査には該当設問はありません。

(5) 子育てについて

問 11. 子育てについて、あなたのご意見にもっとも近いものはどれですか。
①～⑦のそれぞれについて、1つずつ選んで○印をつけてください。

すべての項目で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”人の割合が過半数を超えている。特に、「①子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい」「⑤女の子は家事ができるように育てるのがよい」「⑥男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい」「⑦女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい」は8割を超えている。

前回調査結果と比較すると、「②子どもの世話の大部分は、男親にもできる」「④男の子は家事ができるように育てるのがよい」「⑦女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい」では、“そう思う”人の割合が低くなっています。

【平成 21 年度調査】

N = 705

①子どもが小さいうちは、
母親は育児に専念したほ
うがよい

②子どもの世話の大部分
は、男親にもできる

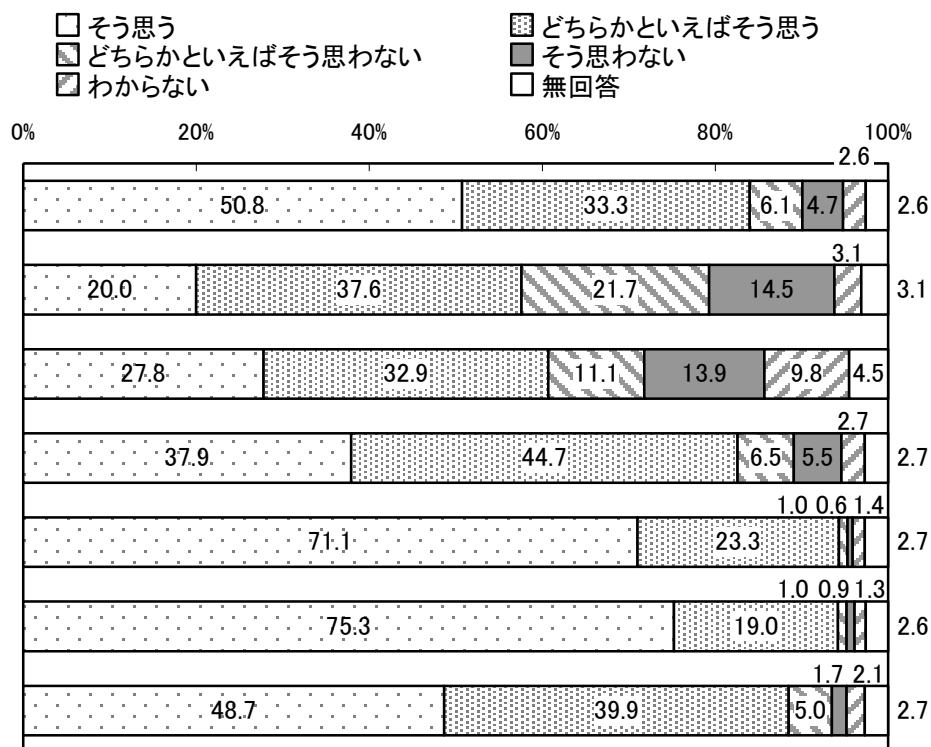
③必要があれば、子育て
支援サービスを受けて子
育てをしてもよい

④男の子は家事ができる
ように育てるのがよい

⑤女の子は家事ができる
ように育てるのがよい

⑥男の子は経済的に自立
できるように育てるのがよ
い

⑦女の子は経済的に自立
できるように育てるのがよ
い



【平成 23 年度調査】

- そう思う
- ▨ どちらかといえばそう思う
- ▩ どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- ▧ わからない
- 無回答

N = 738

①子どもが小さいうちは、
母親は育児に専念したほうがよい

②子どもの世話の大部分は、
男親にもできる

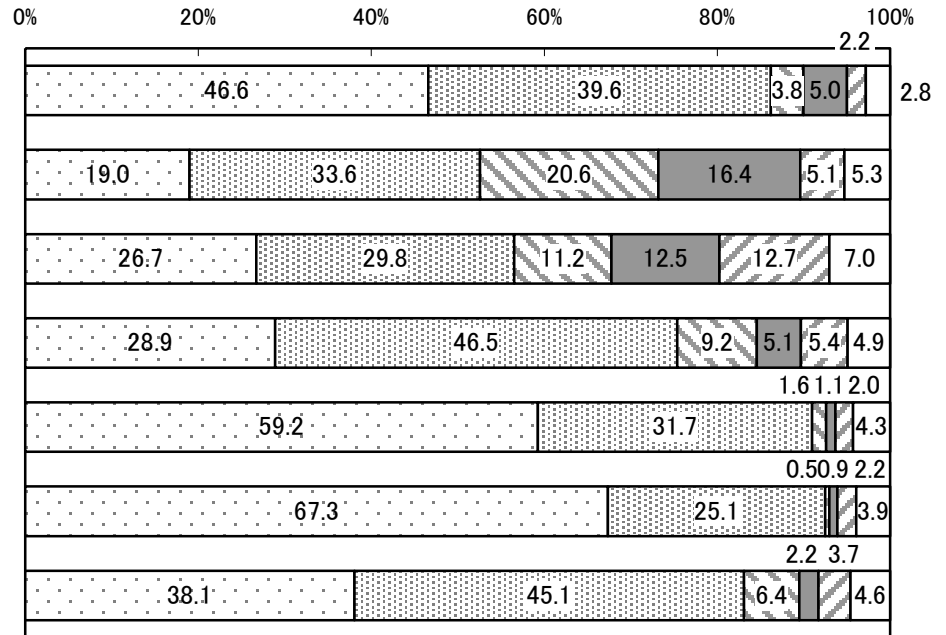
③必要があれば、子育て
支援サービスを受けて子育てをしてもよい

④男の子は家事ができる
ように育てるのがよい

⑤女の子は家事ができる
ように育てるのがよい

⑥男の子は経済的に自立
できるように育てるのがよい

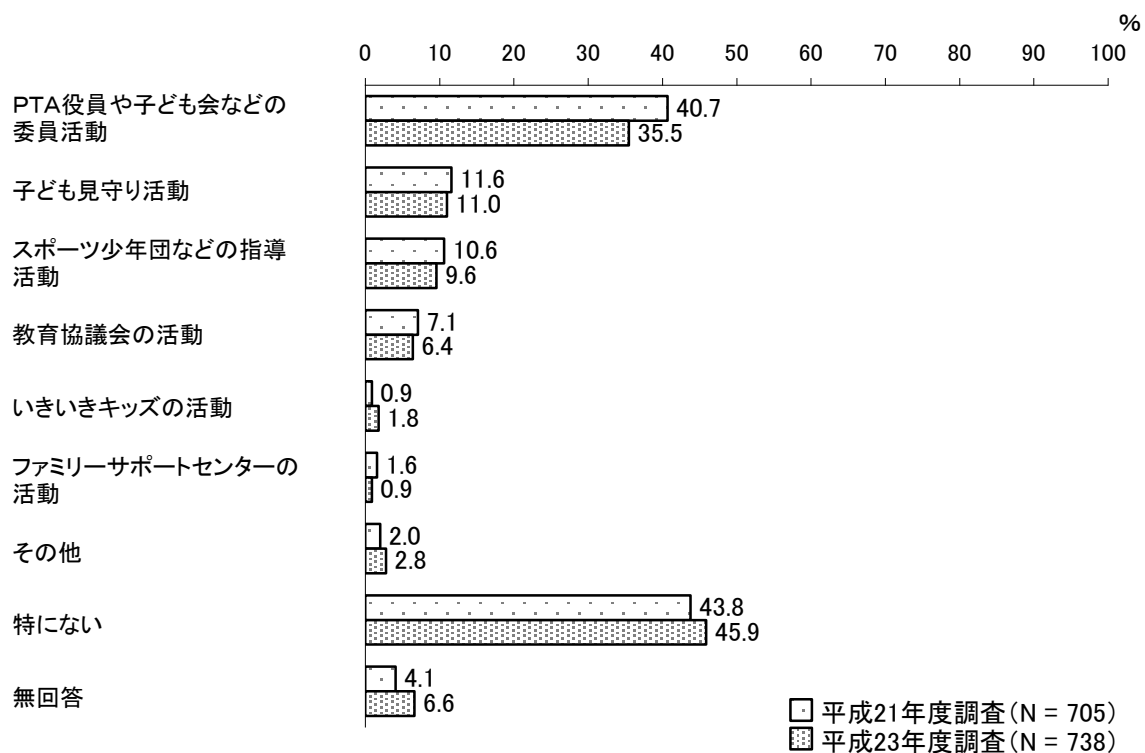
⑦女の子は経済的に自立
できるように育てるのがよい



問12. あなたは、子育てに関する地域活動に参加したことがありますか。次の中からあてはまるものすべてを選んで○印をつけてください。

「特にない」の割合が45.9%と最も高くなっている。また、次いで「PTA役員や子ども会などの委員活動」の割合が35.5%、「子ども見守り活動」の割合が11.0%となっている。

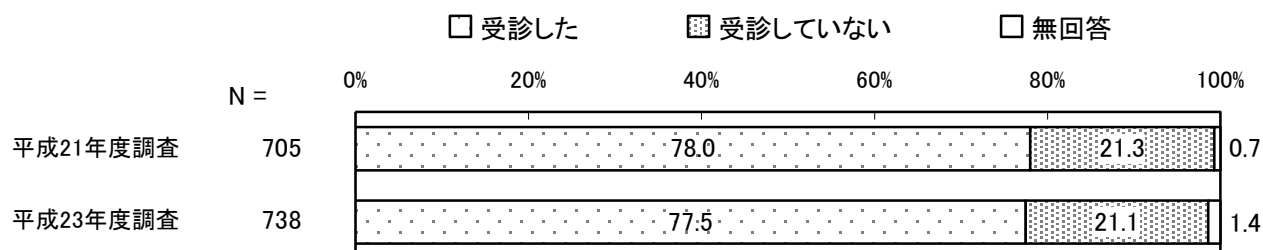
前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。



(6) 健康・介護について

問13. あなたは、平成22年度（平成22年4月～平成23年3月）の1年間で、健康診断を受診しましたか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

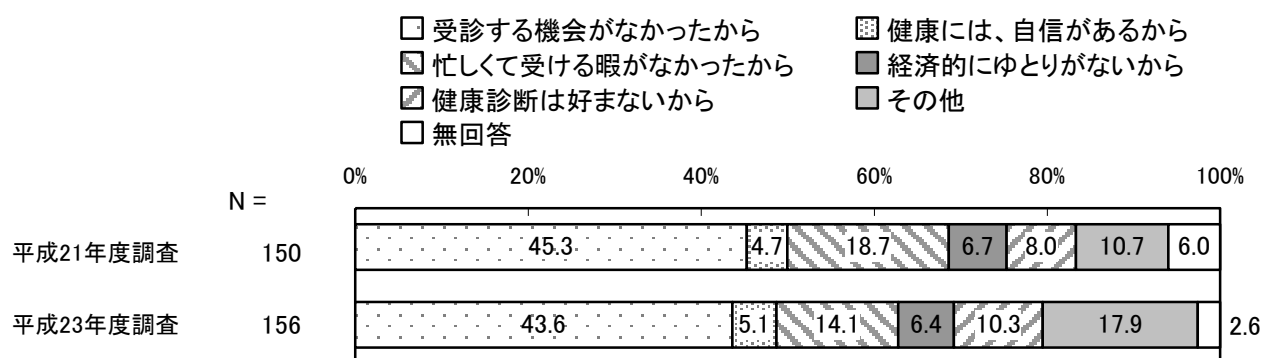
「受診した」の割合が77.5%、「受診していない」の割合が21.1%となっている。前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。



問13-1. 問13で「2. 受診していない」と答えた方にお聞きします。なぜ、受診しなかったのですか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

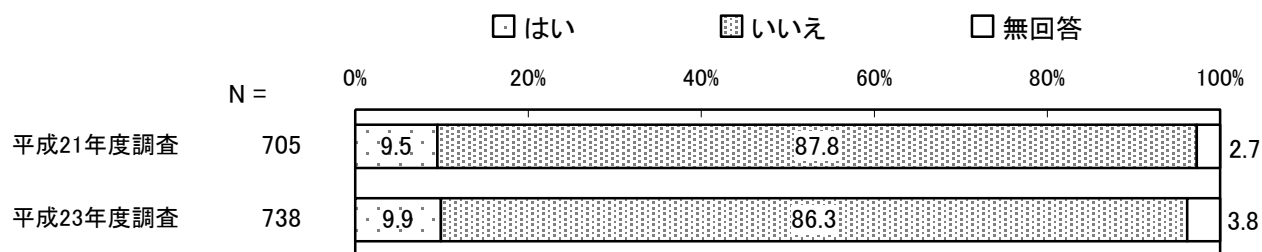
「受診する機会がなかったから」の割合が43.6%と最も高く、次いで「忙しくて受ける暇がなかったから」の割合が14.1%、「健康診断は好まないから」の割合が10.3%となっている。

前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。



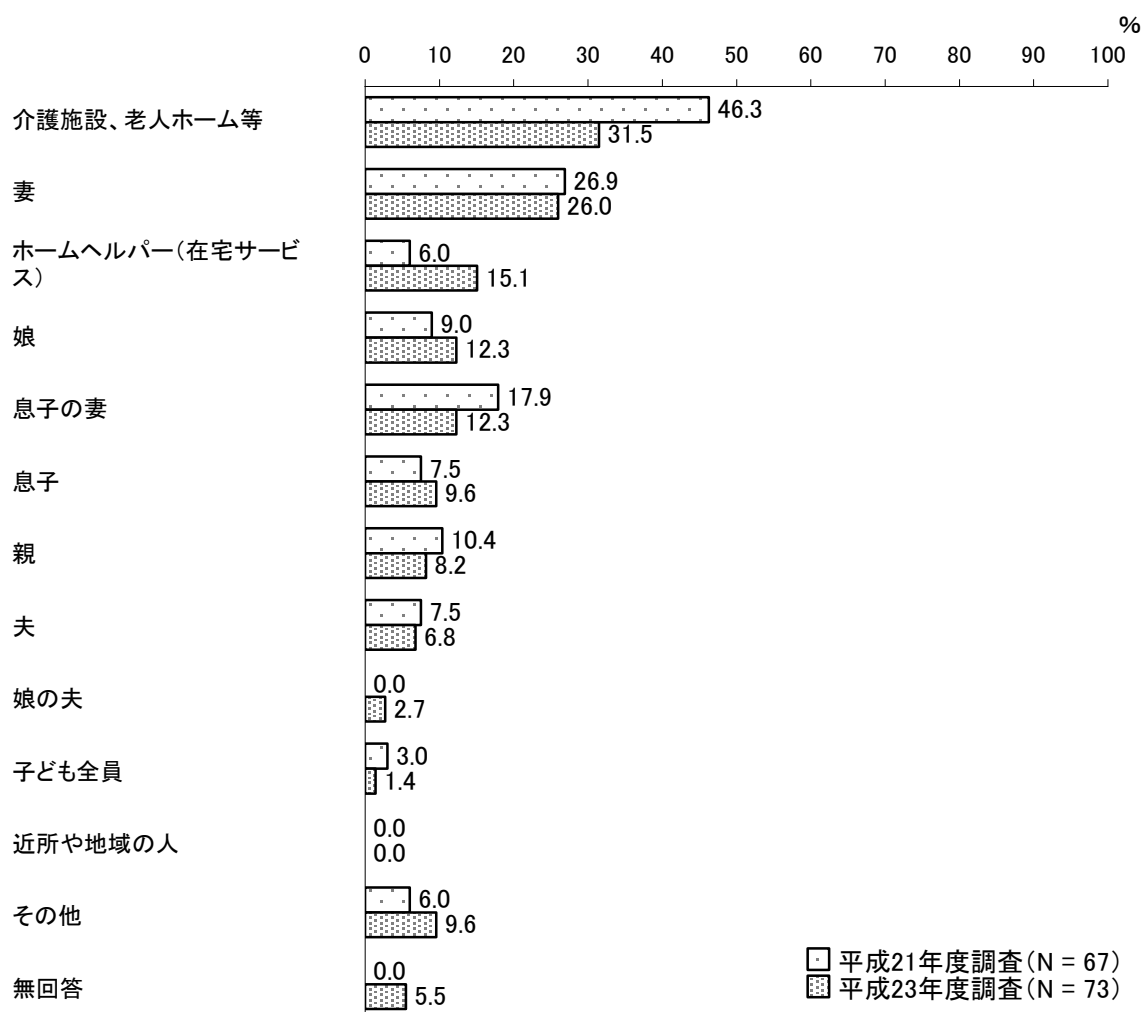
問14. あなたの家庭に、常時介護の必要な方はいますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

「はい」の割合が9.9%、「いいえ」の割合が86.3%となっている。
 前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。



問14-1. 問14で「1. はい」と答えた方にお聞きします。その方の世話は誰がしていますか。次の中から主なものを2つまで選んで○印をつけてください。(※介護を受ける人からみた続柄でお答えください。)

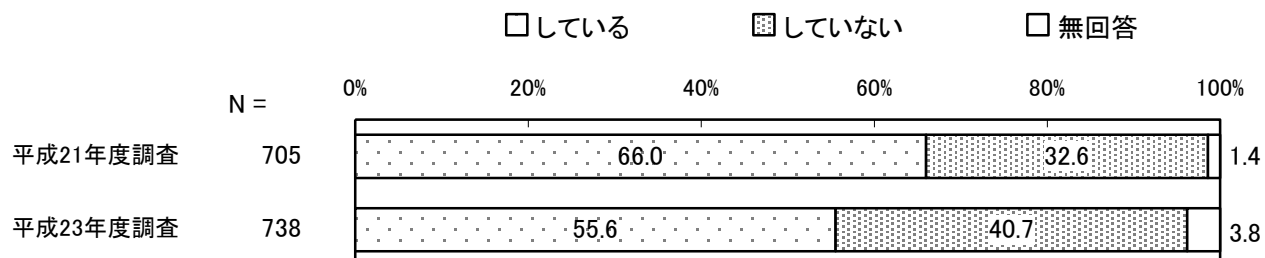
「介護施設、老人ホーム等」の割合が31.5%と最も高く、次いで「妻」の割合が26.0%、「ホームヘルパー（在宅サービス）」の割合が15.1%となっている。
 前回調査結果と比較すると、「ホームヘルパー（在宅サービス）」の割合が高くなっている一方、「介護施設、老人ホーム等」「息子の妻」の割合が低くなっている。



(7) 就労について

問15. あなたは現在、収入を得る仕事（産前・産後休暇、育児・介護休業中も含む）をしていますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

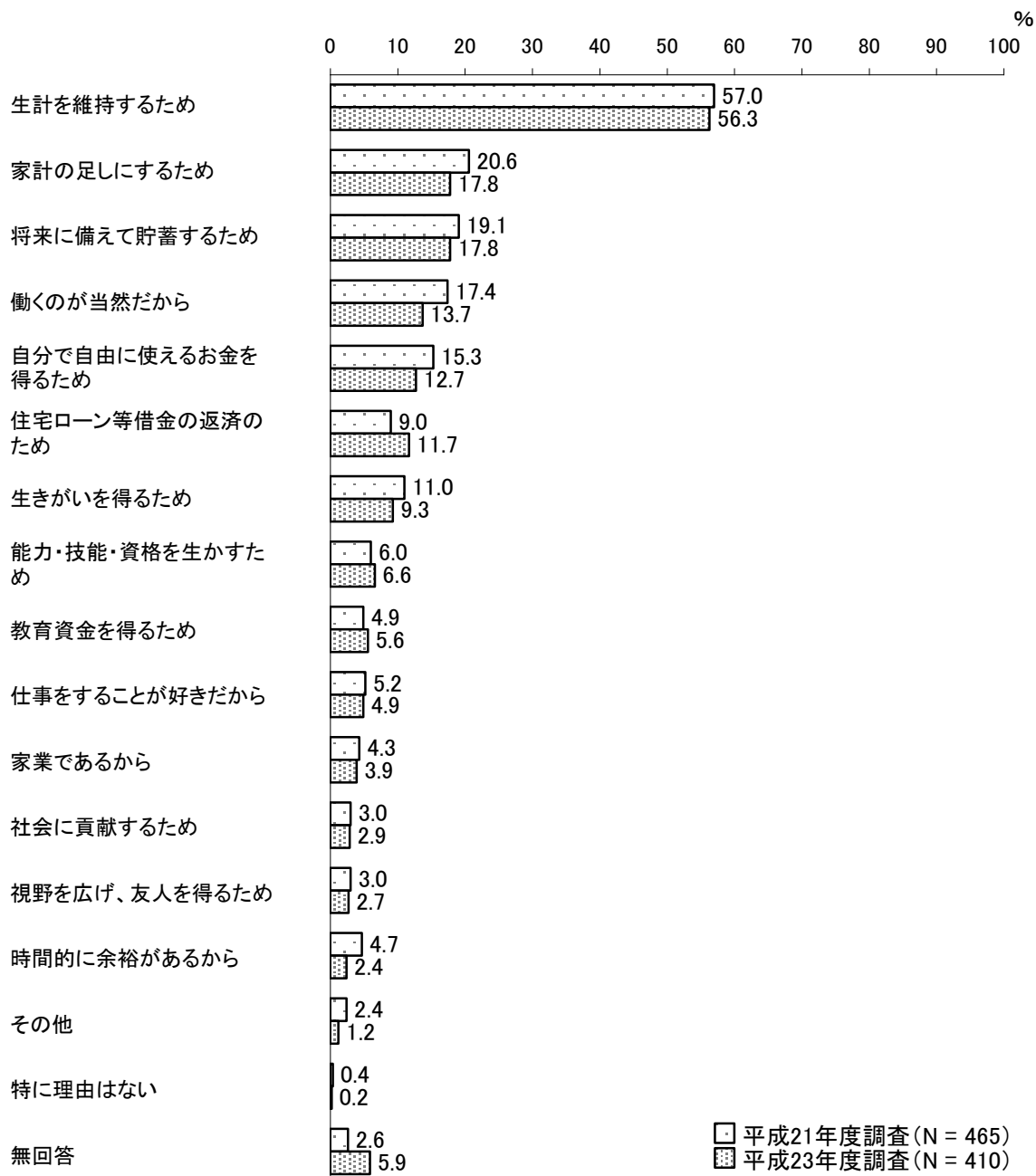
「している」の割合が55.6%、「していない」の割合が40.7%となっている。
前回調査結果と比較すると、「している」の割合が低くなっている。



問15-1. 問15で「1. している」と答えた方にお聞きします。あなたが働いているのはどのような理由からですか。次の中から主なものを2つまで選んで○印をつけてください。

「生計を維持するため」の割合が56.3%と最も高く、次いで「将来に備えて貯蓄するため」「家計の足しにするため」の割合が17.8%となっている。

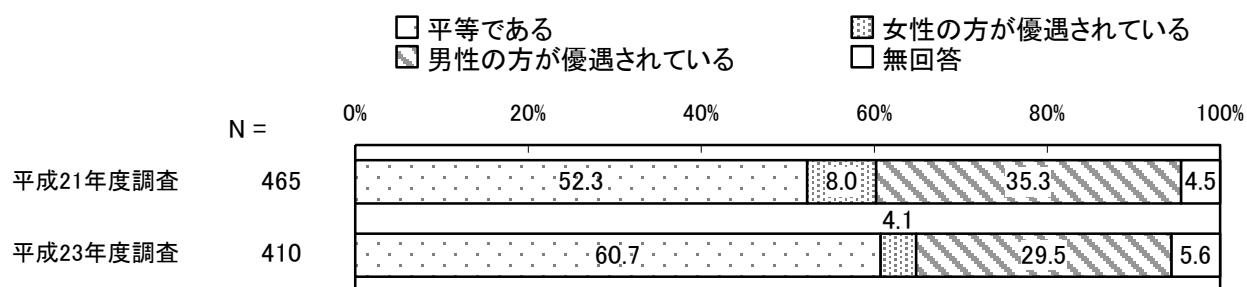
前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。



問15-2. 問15で「1. している」と答えた方にお聞きします。あなたの働いているところでは、男性と女性は平等だと思いますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

「平等である」の割合が60.7%と最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」の割合が29.5%、「女性の方が優遇されている」の割合が4.1%となっている。

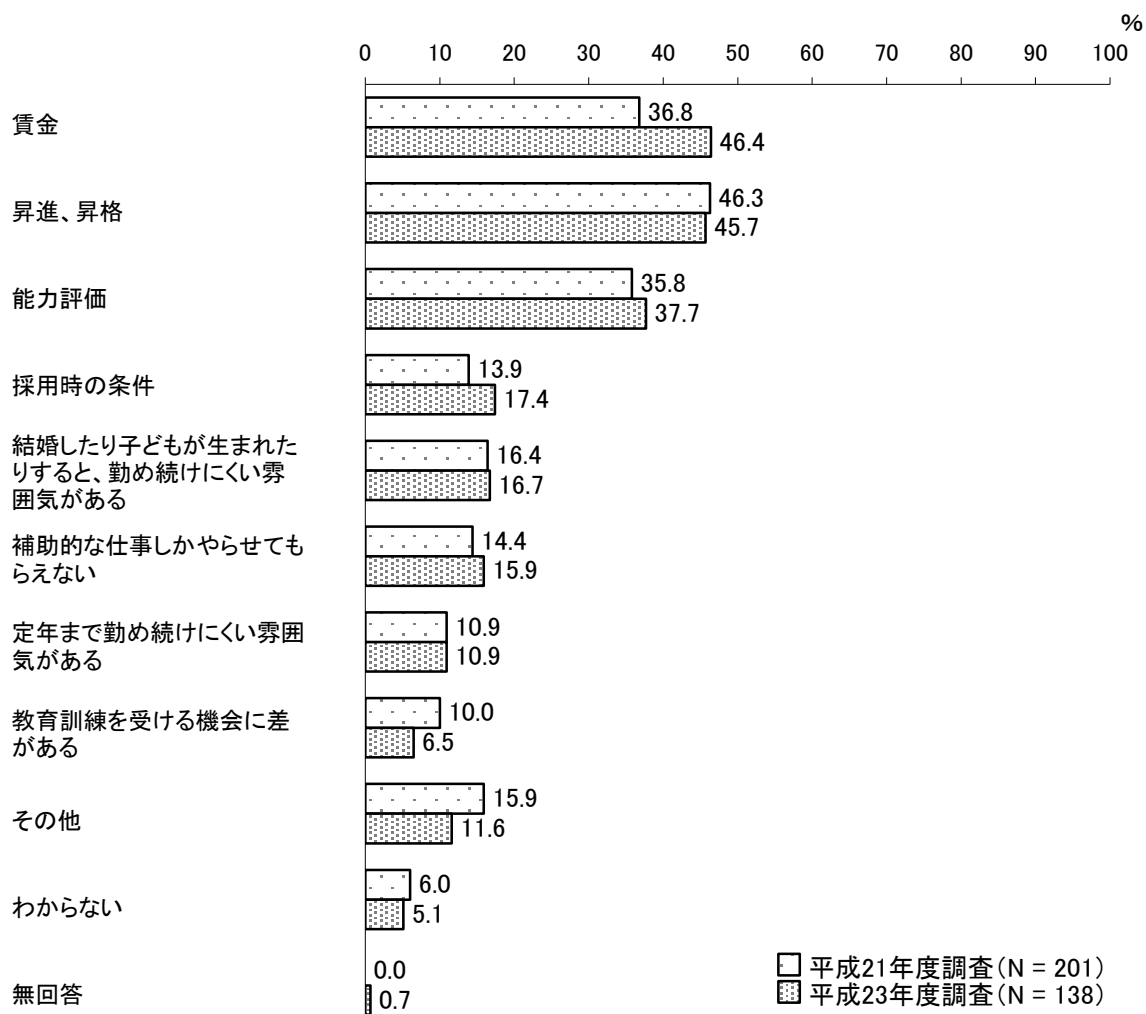
前回調査結果と比較すると、「平等である」の割合が高く、「男性の方が優遇されている」の割合が低くなっている。



問15-3. 問15-2で「2. 女性の方が優遇されている」「3. 男性の方が優遇されている」と答えた方にお聞きします。あなたが働いているところで、男女が平等だと思わないのはどのようなことですか。次の中からあてはまるものすべてを選んで○印をつけてください。

「賃金」の割合が46.4%と最も高く、次いで「昇進、昇格」の割合が45.7%、「能力評価」の割合が37.7%となっている。

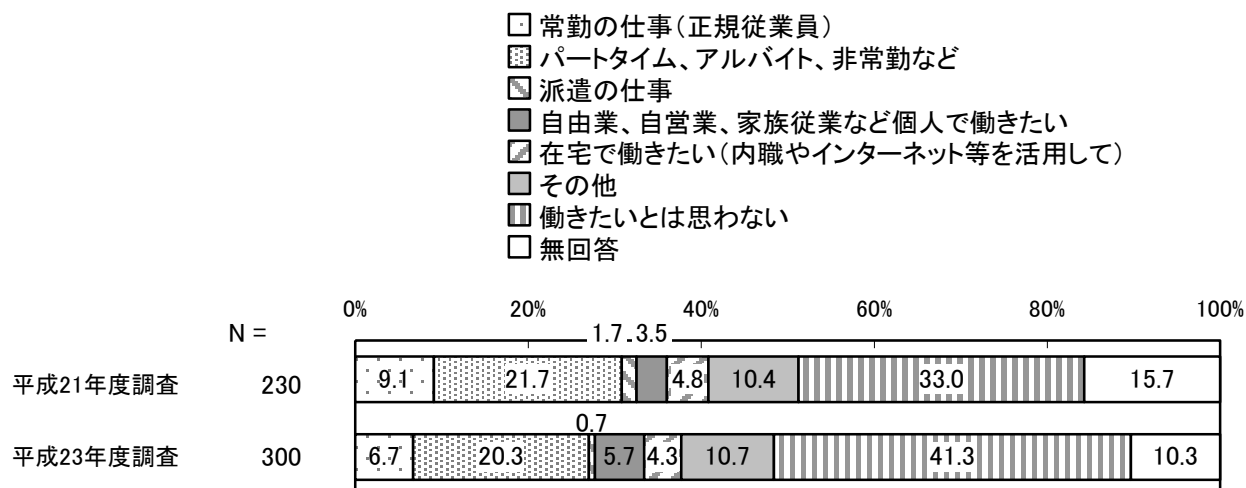
前回調査結果と比較すると、「賃金」の割合が高くなっている。



問15-4. 問15で「2. していない」と答えた方にお聞きします。今後適当な仕事があれば働きたいですか。働きたい仕事の形を、次の中から1つ選んで○印をつけてください。

「働きたいとは思わない」の割合が41.3%と最も高く、次いで「パートタイム、アルバイト、非常勤など」の割合が20.3%、「常勤の仕事（正規従業員）」の割合が6.7%となっている。

前回調査結果と比較すると、「働きたいとは思わない」の割合が高くなっている。

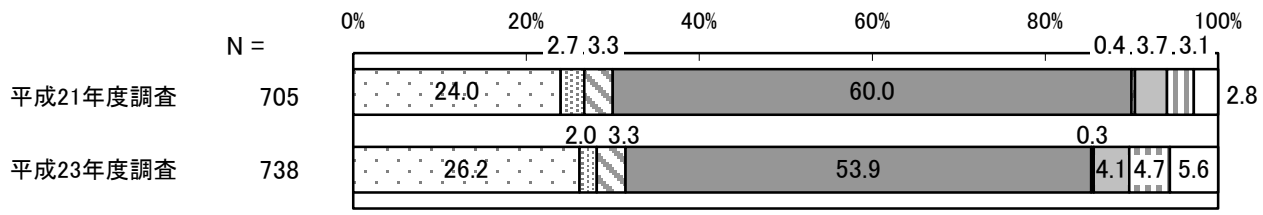


問16. 女性が職業をもつことについてあなたはどのように思いますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業をもつ方がいい」の割合が53.9%と最も高く、次いで「結婚して子どもが生まれた後も、職業をもち続ける方がいい」の割合が26.2%となっている。

前回調査結果と比較すると、「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業をもつ方がいい」の割合が低くなっている。

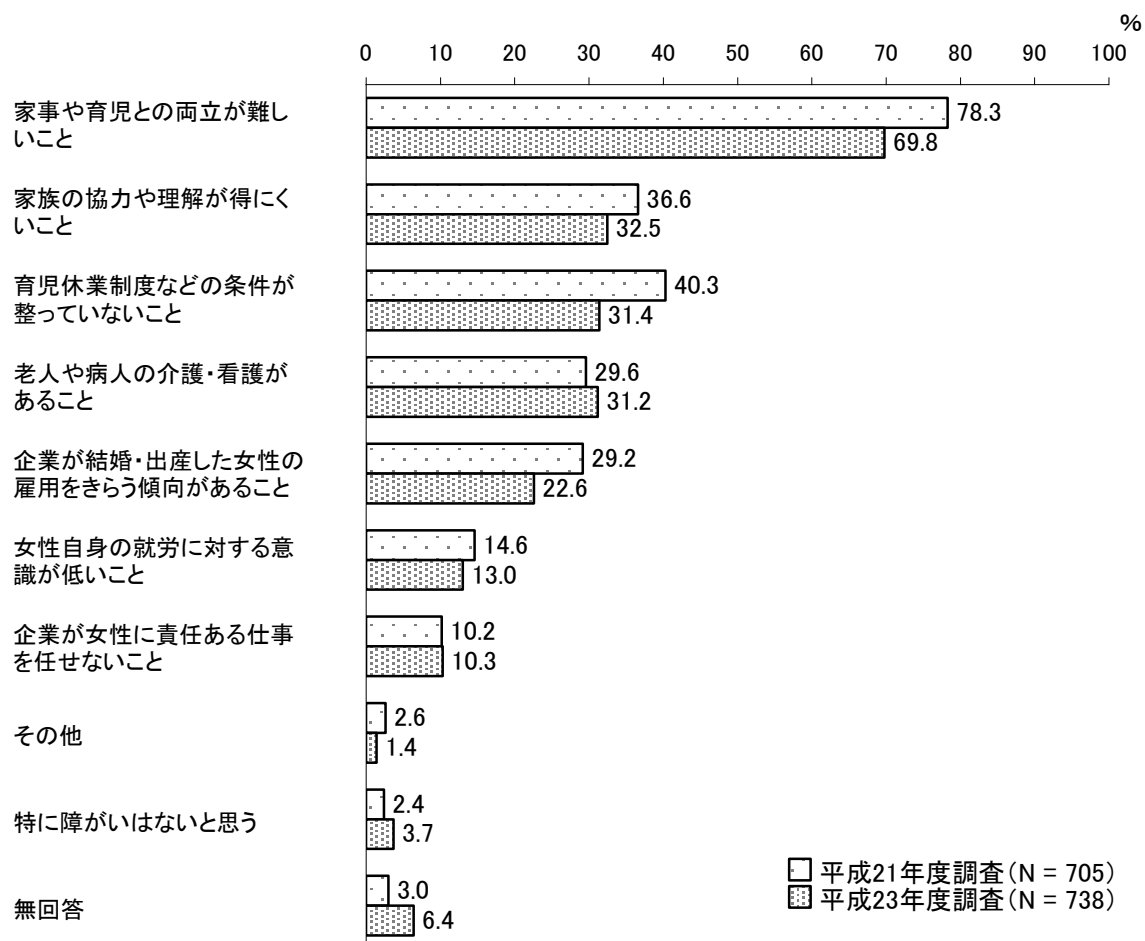
- 結婚して子どもが生まれた後も、職業をもち続ける方がいい
- 結婚するまでは職業をもつが、その後はもたない方がいい
- 結婚して子どもができるまでは職業をもつが、その後はもたない方がいい
- 結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業をもつ方がいい
- 職業は一生もたない方がいい
- その他
- わからない
- 無回答



問17. 女性が働き続けていくうえで、大きな障がいになっているのは何だと思えますか。次の中から主なものを3つまで選んで○印をつけてください。

「家事や育児との両立が難しいこと」の割合が69.8%と最も高く、次いで「家族の協力や理解が得にくいこと」の割合が32.5%、「育児休業制度などの条件が整っていないこと」の割合が31.4%となっている。

前回調査結果と比較すると、「家事や育児との両立が難しいこと」「育児休業制度などの条件が整っていないこと」「企業が結婚・出産した女性の雇用をきらう傾向があること」の割合が低くなっている。



問18. あなたは、次の制度の内容についてご存知ですか。また実際に取得したことがありますか。それぞれについて、1つずつ選んで○印をつけてください。

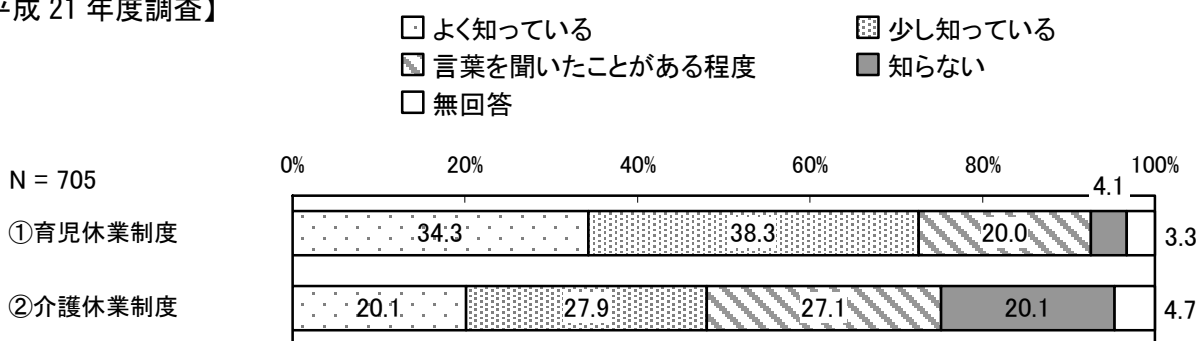
① 内容を知っているか

育児休業制度では「少し知っている」の割合が38.9%と最も高く、次いで「よく知っている」の割合が33.2%、「言葉を聞いたことがある程度」の割合が17.5%となっている。

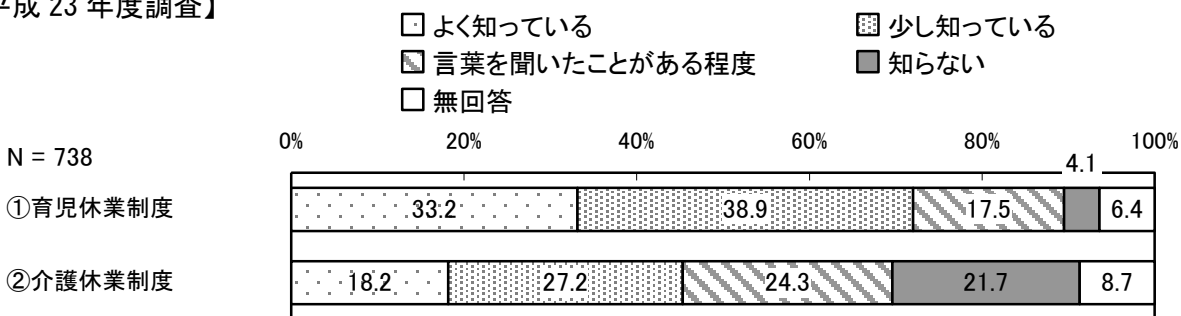
介護休業制度では「少し知っている」の割合が27.2%と最も高く、次いで「言葉を聞いたことがある程度」の割合が24.3%、「知らない」の割合が21.7%となっている。

前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。

【平成21年度調査】



【平成23年度調査】



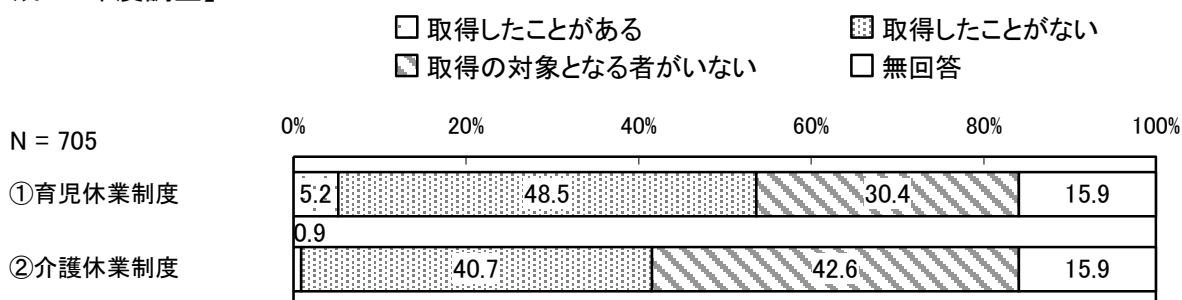
② 取得したことがあるか

育児休業制度では「取得したことがない」の割合が41.2%と最も高く、次いで「取得の対象となる者がいない」の割合が31.7%となっている。一方、「取得したことがある」の割合が4.2%となっている。

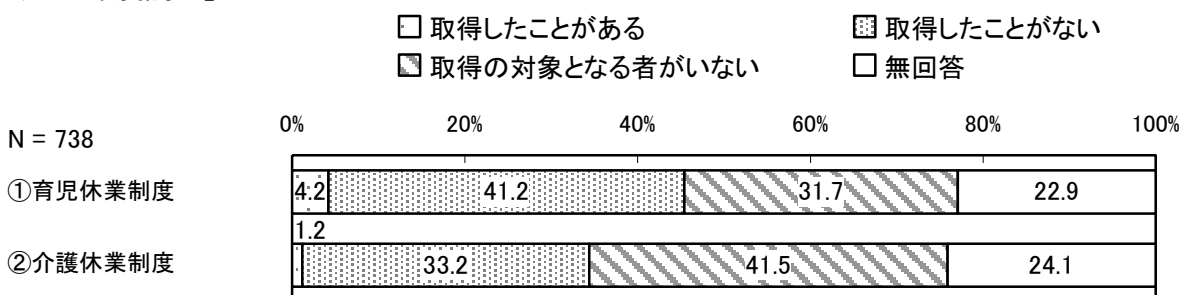
介護休業制度では「取得の対象となる者がいない」の割合が41.5%と最も高く、次いで「取得したことがない」の割合が33.2%となっている。一方、「取得したことがある」の割合が1.2%となっている。

前回調査結果と比較すると、育児休業制度、介護休業制度ともに「取得したことがない」の割合が低くなっている。

【平成 21 年度調査】



【平成 23 年度調査】

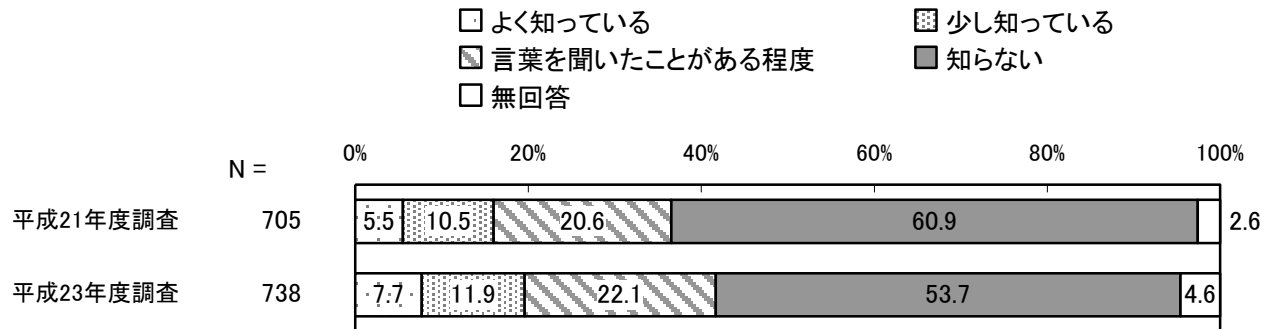


(8) ワーク・ライフ・バランスについて

問19. あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉について、ご存知ですか。
次の中から1つ選んで○印をつけてください。

「知らない」の割合が53.7%と最も高く、次いで「言葉を聞いたことがある程度」の割合が22.1%、「少し知っている」の割合が11.9%となっている。

前回調査結果と比較すると、「知らない」の割合が低くなっている。



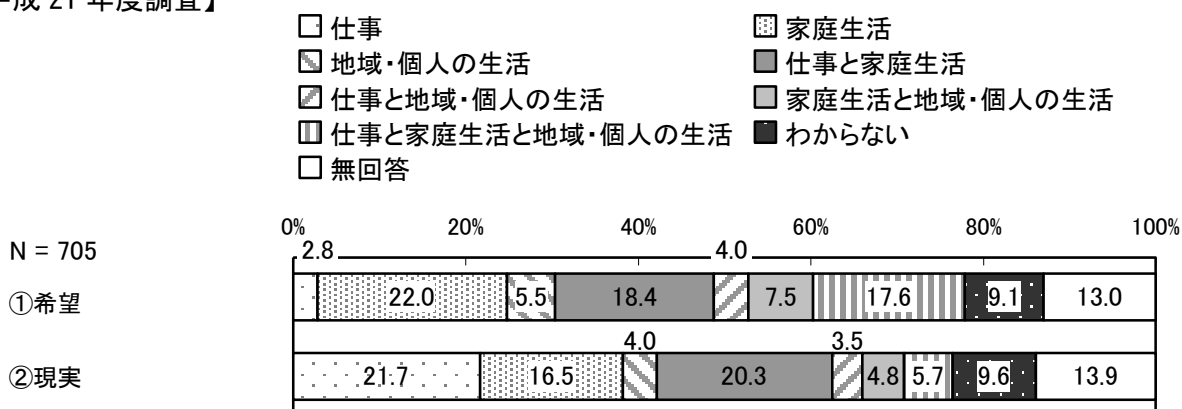
問20. 生活の中での、仕事、家庭生活、地域・個人の優先度について、あなたの「希望」と「現実」をお答えください。①、②のそれぞれについて、1つずつ選んで○印をつけてください。

①希望では、「仕事と家庭生活」の割合が17.2%と最も高く、次いで「仕事と家庭生活と地域・個人の生活」の割合が15.3%、「家庭生活」の割合が15.2%となっている。

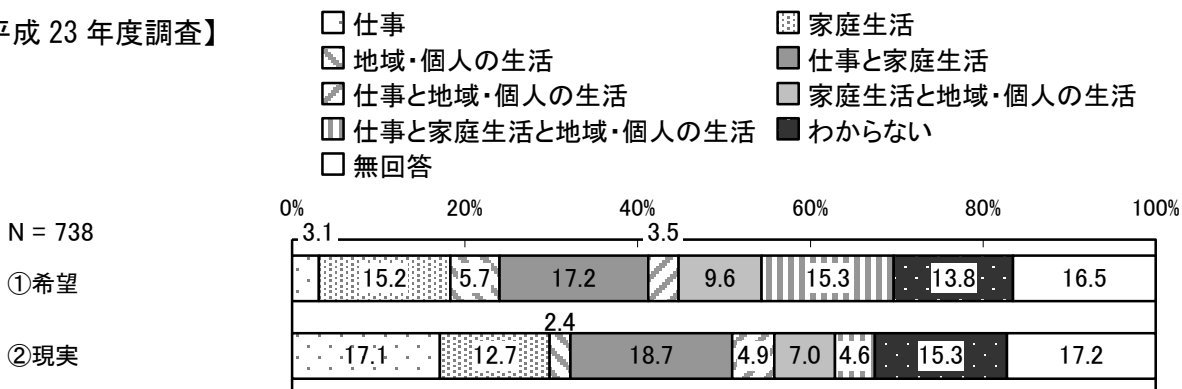
②現実では、「仕事と家庭生活」の割合が18.7%と最も高く、次いで「仕事」の割合が17.1%となっている。

前回調査結果と比較すると、①希望で「家庭生活」の割合が低くなっている。

【平成21年度調査】

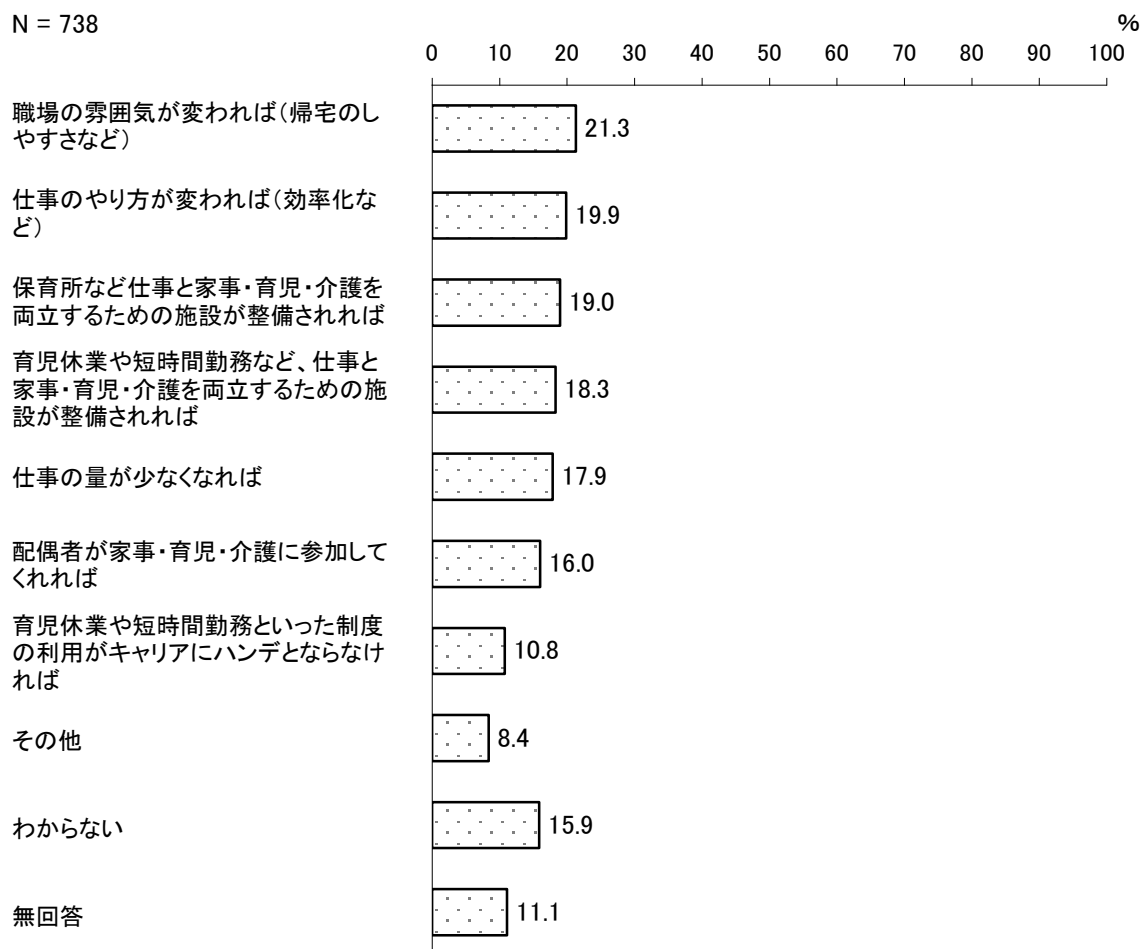


【平成23年度調査】



問 2 1. どのようにすれば、自分が希望する時間の取り方ができると思いますか。次の中からあてはまるものすべてを選んで○印をつけてください。

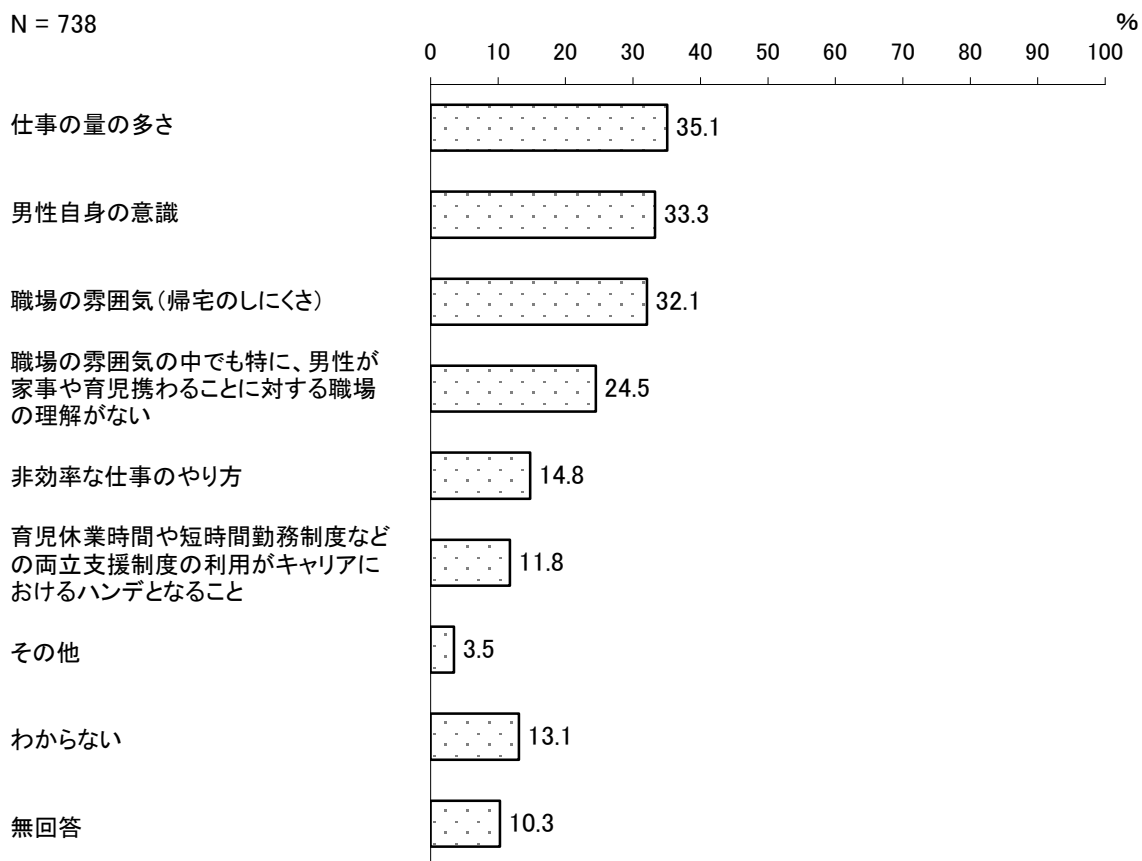
「職場の雰囲気が変われば（帰宅のしやすさなど）」の割合が 21.3%と最も高く、次いで「仕事のやり方が変われば（効率化など）」「保育所など仕事と家事・育児・介護を両立するための施設が整備されれば」の割合が 19.0%となっている。



※平成 21 年度調査には該当設問はありません。

問 2 2. 男性の働き方について、長時間労働が顕著になっていたり、休みが取りにくいといった実情があると思いますが、これらの原因は何にあると思いますか。次の中からあてはまるものすべてを選んで○印をつけてください。

「仕事の量の多さ」の割合が 35.1%と最も高く、次いで「男性自身の意識」の割合が 33.3%、「職場の雰囲気（帰宅のしにくさ）」の割合が 32.1%となっている。



※平成 21 年度調査には該当設問はありません。

(9) ドメスティック・バイオレンスなどについて

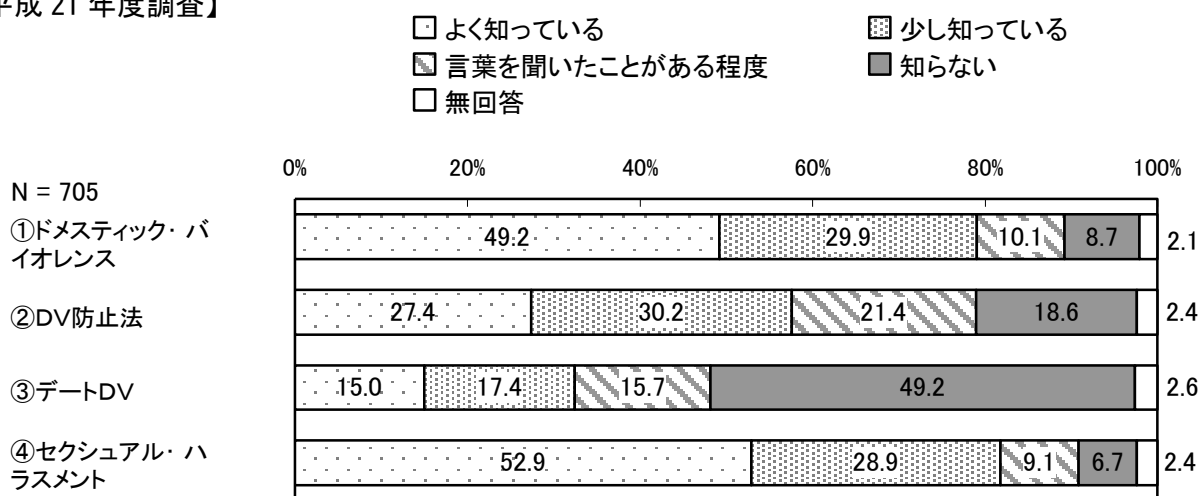
問23. あなたは、次の言葉および法律の内容についてご存知ですか。①～⑤のそれぞれについて、1つずつ選んで○印をつけてください。

「①ドメスティック・バイオレンス」と「⑤セクシュアル・ハラスメント」では、「よく知っている」の割合が最も高く、4割を超えている。一方、「③DVに関する通報の呼びかけ」「④デートDV」では、「知らない」の割合が最も高くなっている。

「②DV防止法」では「よく知っている」「少し知っている」をあわせた割合が47.7%、「知らない」の割合が21.4%となっている。

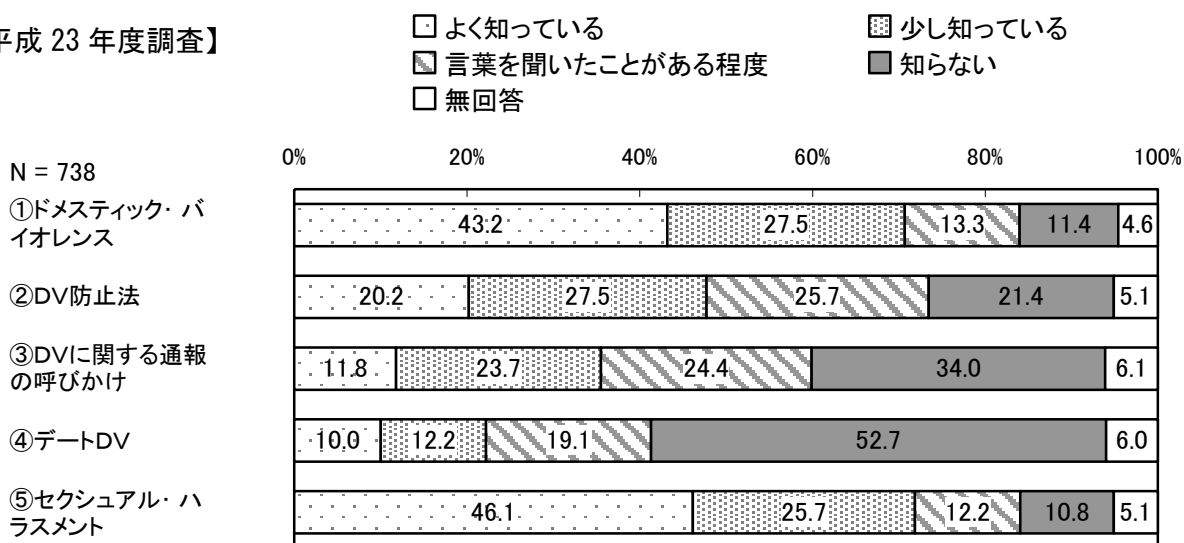
前回調査結果と比較すると、「③DVに関する通報の呼びかけ」を除く全ての項目で「よく知っている」「少し知っている」をあわせた“知っている”の割合が低くなっている。

【平成21年度調査】



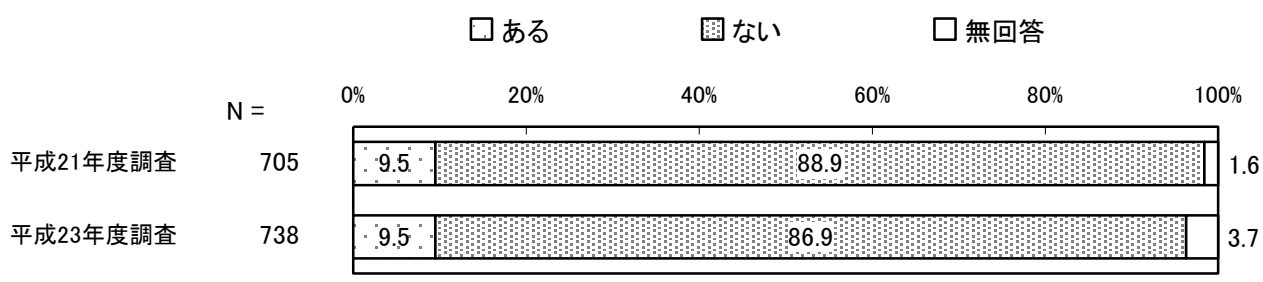
※平成21年度調査には「③DVに関する通報の呼びかけ」の回答項目はありません。

【平成23年度調査】



問24. あなたはこれまでに、配偶者や恋人等から暴力を受けた経験がありますか。次の中から選んで○印をつけてください。

「ある」の割合が9.5%、「ない」の割合が86.9%となっている。
 前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。



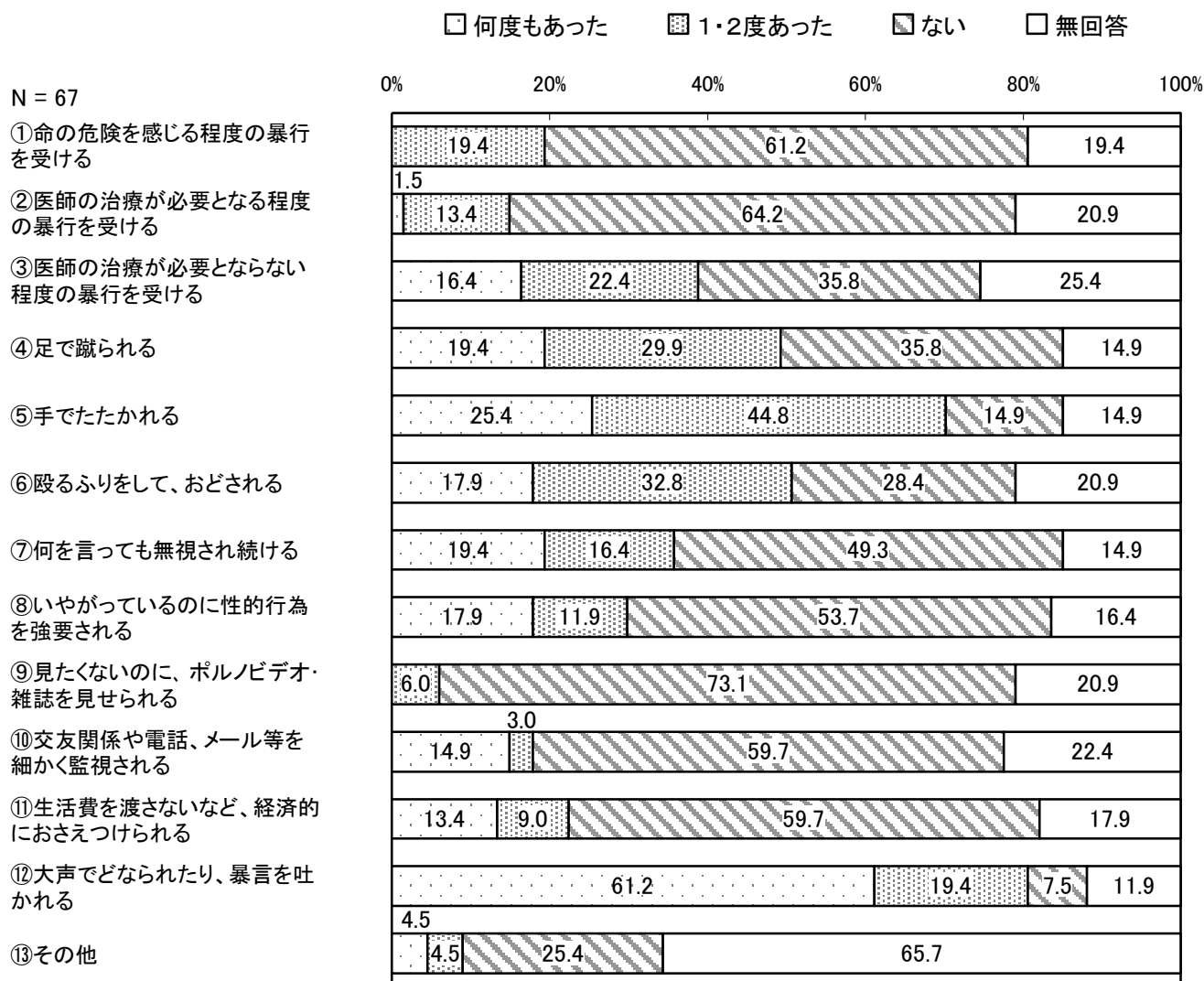
問24-1. 問24で「1. ある」と答えた方にお聞きします。その暴力はどのようなものでしたか。これまでの状況に関して①～⑬のそれぞれについて、1つずつ選んで○印をつけてください。また、現在の状況についても同様に、1つずつ選んで○印をつけてください。

① これまでの状況

「⑥大声でどなられたり、暴言を吐かれる」「③医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける」「⑦足で蹴られる」「⑧手でたたかれる」「⑨殴るふりをして、おどされる」では、「何度もあった」と「1・2度あった」をあわせたDV被害経験の割合が高く、4割以上をとっている。

前回調査結果と比較すると、「①命の危険を感じる程度の暴行を受ける」「⑤生活費を渡さないなど、経済的におさえつけられる」「⑥大声でどなられたり、暴言を吐かれる」「⑦足で蹴られる」「⑧手でたたかれる」「⑨殴るふりをして、おどされる」「⑩何を言っても無視され続ける」では、「何度もあった」と「1・2度あった」をあわせたDV被害経験の割合が低くなっている一方、「④交友関係や電話、メール等を細かく監視される」「⑫見たくないのに、ポルノビデオ・雑誌を見せられる」でDV被害経験の割合が高くなっている。

【平成21年度調査】



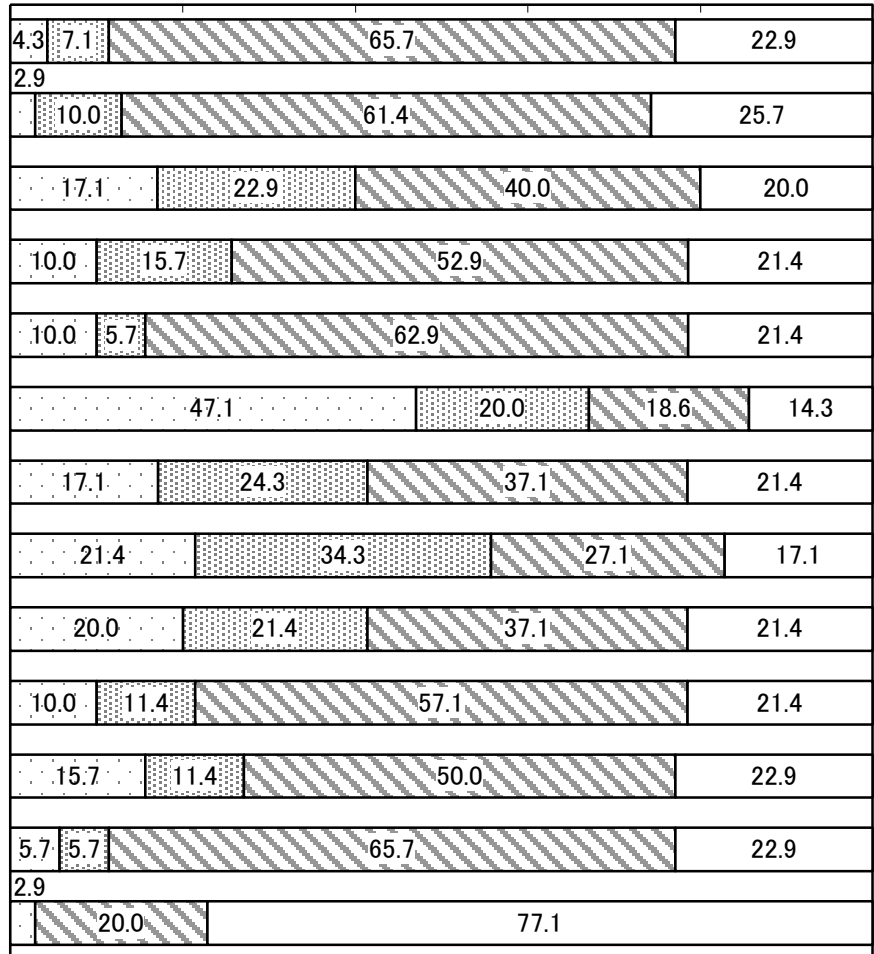
【平成 23 年度調査】

□ 何度もあった ▨ 1・2度あった ▩ ない □ 無回答

N = 70

0% 20% 40% 60% 80% 100%

- ①命の危険を感じる程度の暴行を受ける
- ②医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける
- ③医師の治療が必要とされない程度の暴行を受ける
- ④交友関係や電話、メール等を細かく監視される
- ⑤生活費を渡さないなど、経済的におさえつけられる
- ⑥大声でどなられたり、暴言を吐かれる
- ⑦足で蹴られる
- ⑧手でたたかれる
- ⑨殴るふりをして、おどされる
- ⑩何を言っても無視され続ける
- ⑪いやがっているのに性的行為を強要される
- ⑫見たくないのに、ポルノビデオ・雑誌を見せられる
- ⑬その他



② 現在の状況

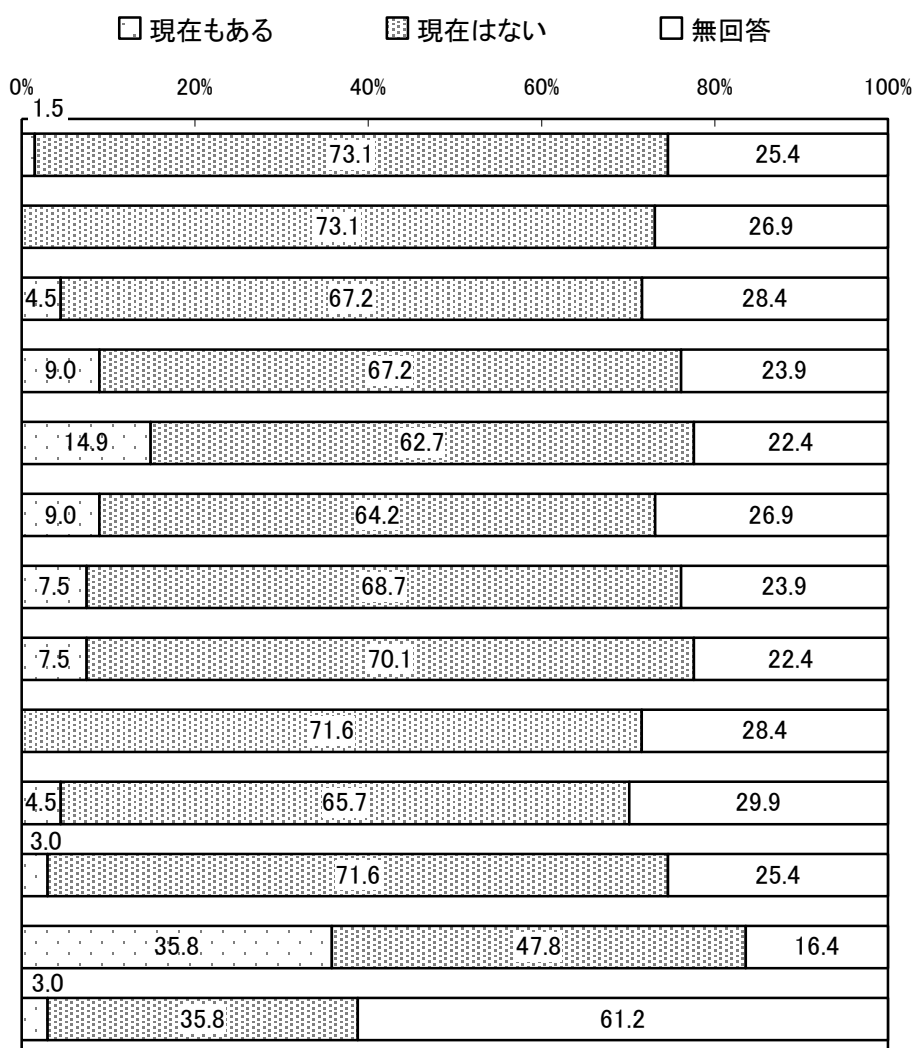
現在の状況については、「⑥大声でどなられたり、暴言を吐かれる」で「現在もある」の割合が高く、27.1%となっている。

前回調査結果と比較すると、「⑥大声でどなられたり、暴言を吐かれる」「⑧手でたたかれる」で「現在もある」の割合が低くなっている。

【平成 21 年度調査】

N = 67

- ①命の危険を感じる程度の暴行を受ける
- ②医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける
- ③医師の治療が必要とされない程度の暴行を受ける
- ④足で蹴られる
- ⑤手でたたかれる
- ⑥殴るふりをして、おどされる
- ⑦何を言っても無視され続ける
- ⑧いやがっているのに性的行為を強要される
- ⑨見たくないのに、ポルノビデオ・雑誌を見せられる
- ⑩交友関係や電話、メール等を細かく監視される
- ⑪生活費を渡さないなど、経済的におさえつけられる
- ⑫大声でどなられたり、暴言を吐かれる
- ⑬その他



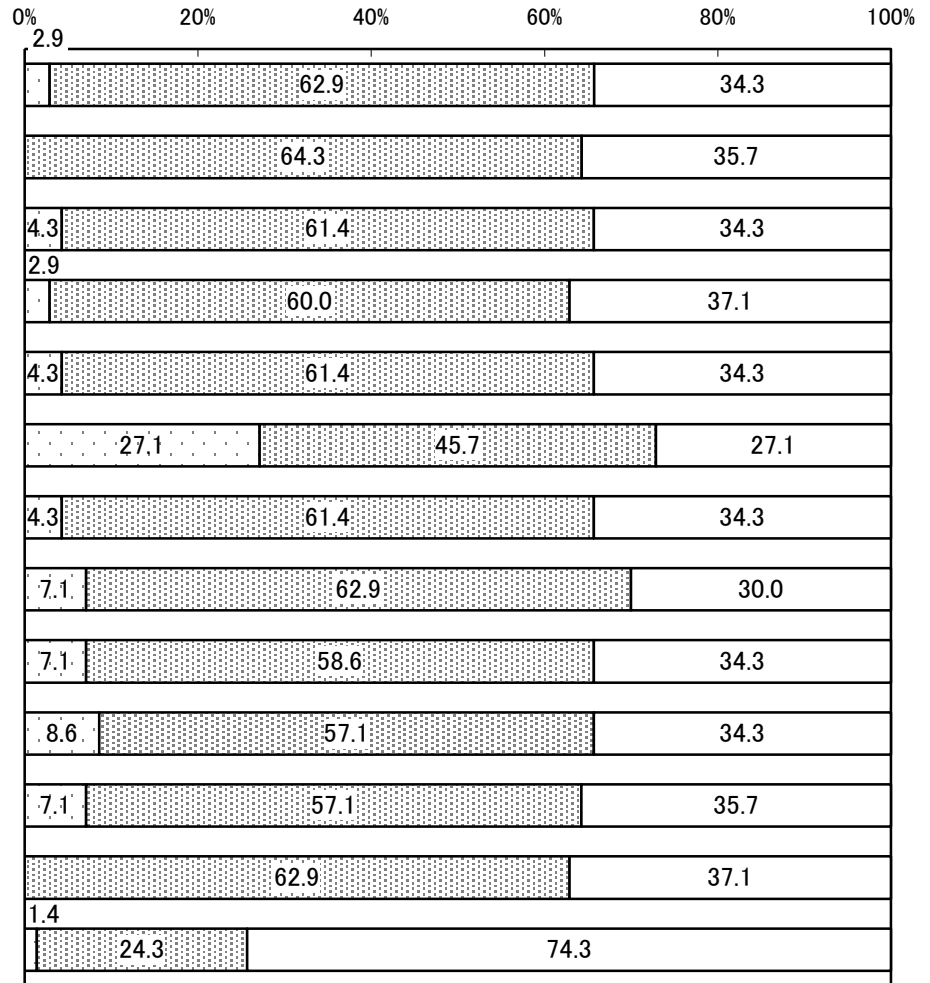
【平成 23 年度調査】

□ 現在もある

■ 現在はない

□ 無回答

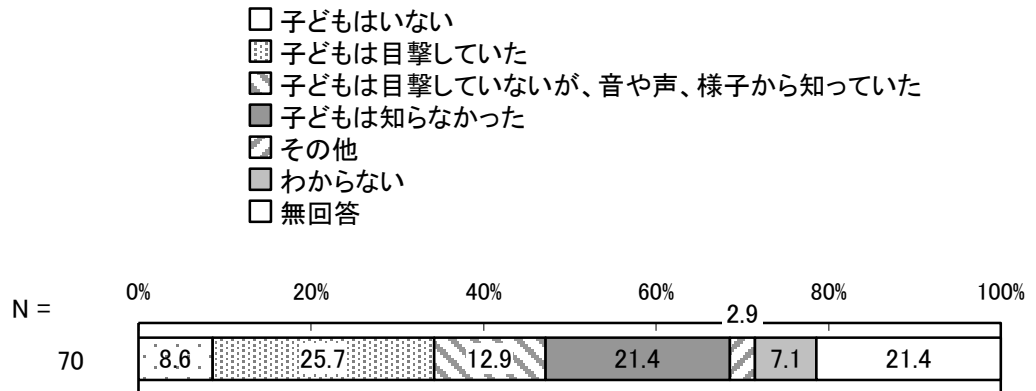
N = 70



問24-2. 問24で「1. ある」と答えた方にお聞きします。

あなたにはお子さんがいますか。いる場合、あなたのお子さんは、あなたが配偶者からそのような行為を受けたことを知っていましたか。(次の中から1つ選んで○印をつけてください。)

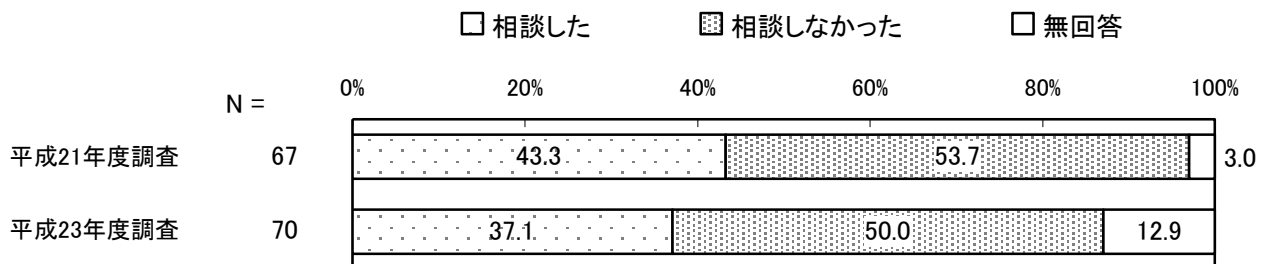
「子どもは目撃していた」の割合が25.7%と最も高く、次いで「子どもは知らなかった」の割合が21.4%、「子どもは目撃していないが、音や声、様子から知っていた」の割合が12.9%となっている。



※平成21年度調査には該当設問はありません。

問24-3. 問24で「1. ある」と答えた方にお聞きします。暴力を受けたとき誰かに相談しましたか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

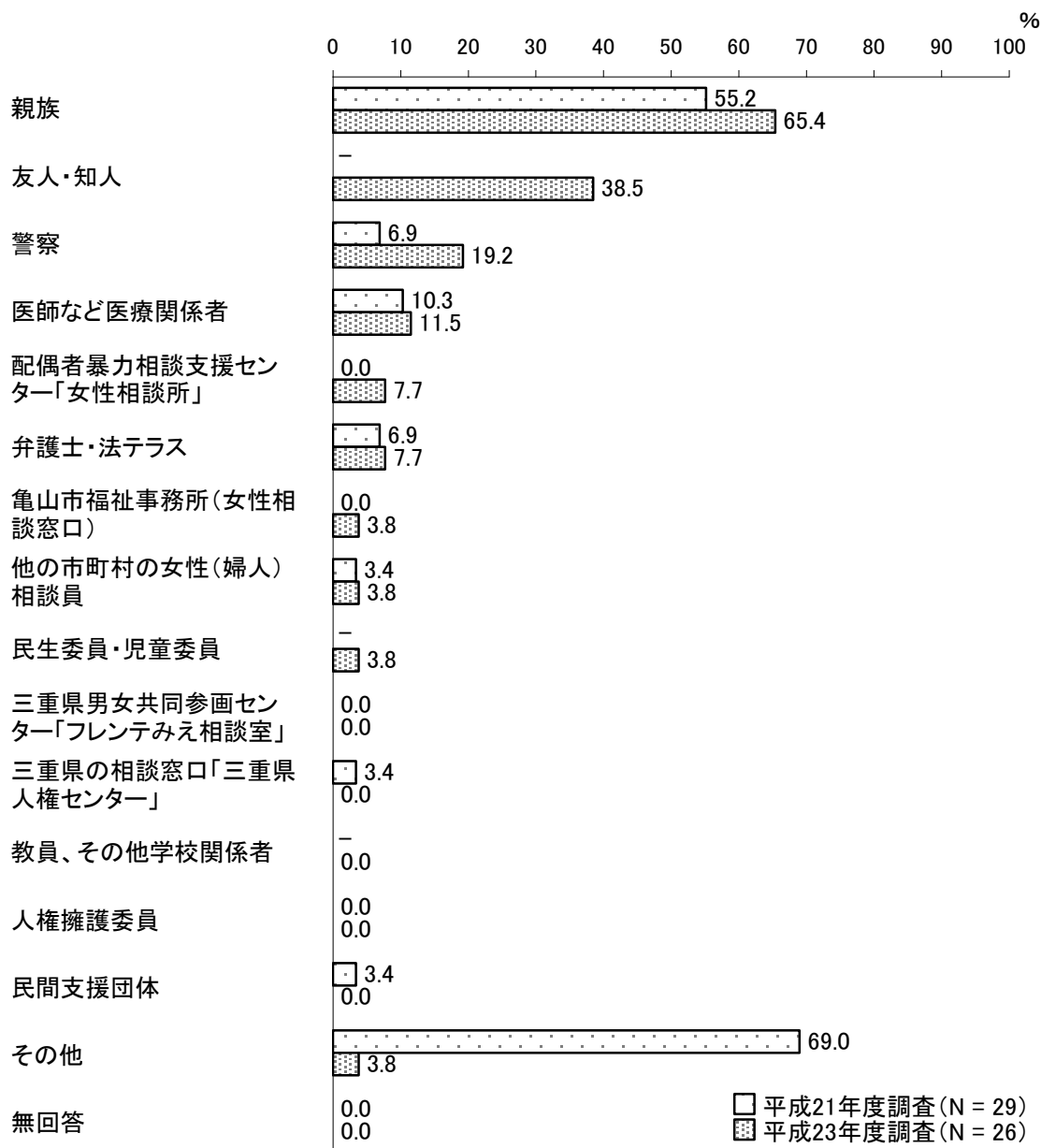
「相談した」の割合が37.1%、「相談しなかった」の割合が50.0%となっている。前回調査結果と比較すると、「相談した」の割合が低くなっている。



問24-4. 問24-3で「1. 相談した」と答えた方にお聞きします。どのような所および人に相談しましたか。次の中からあてはまるものすべてを選んで○印をつけてください。

「親族」の割合が65.4%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が38.5%、「警察」の割合が19.2%となっている。

前回調査結果と比較すると、「親族」「警察」の割合が高くなっている。

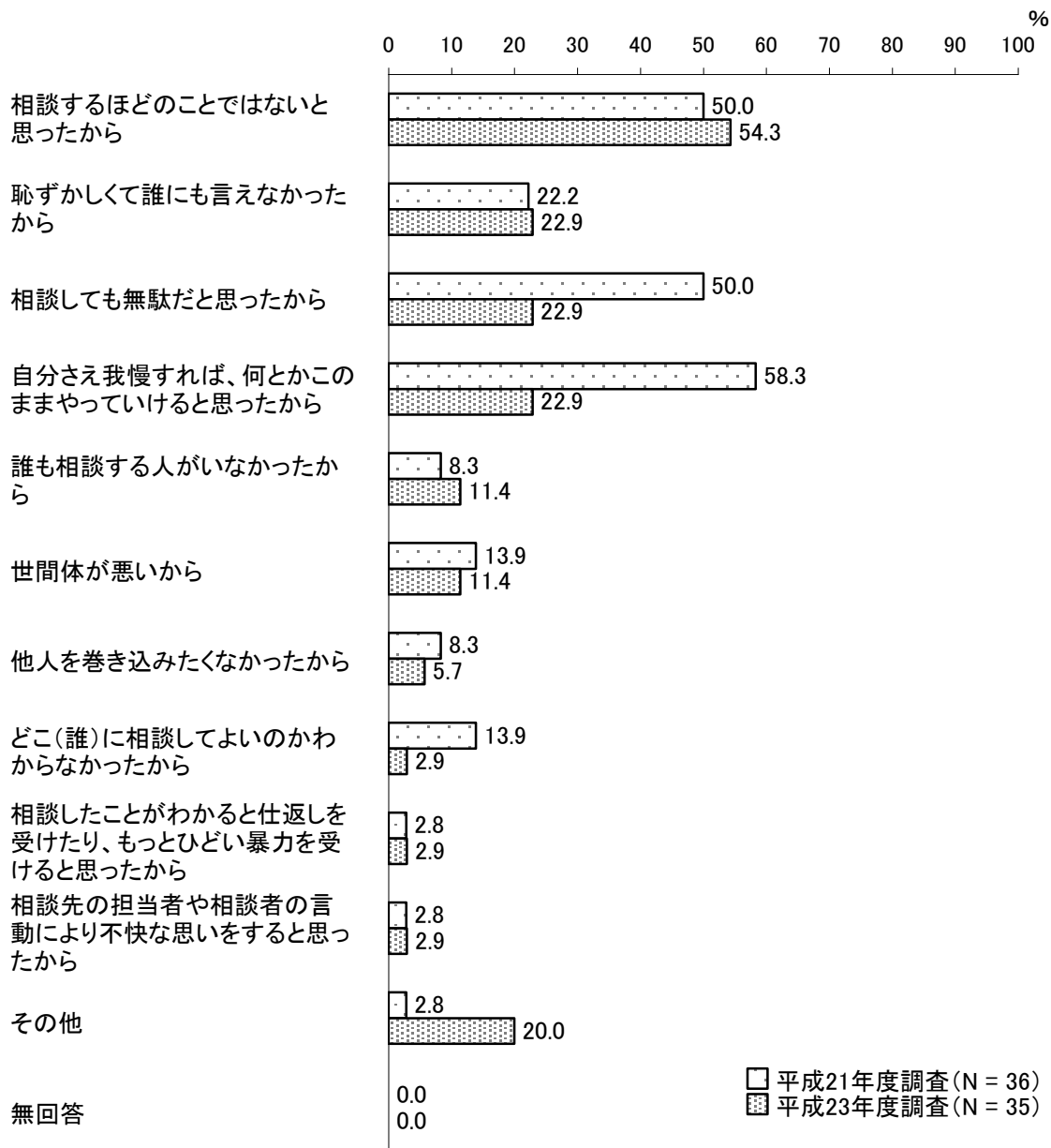


※平成21年度調査には「友人・知人」「民生委員・児童委員」「教員、その他学校関係者」の回答項目はありません。

問24-5. 問24-3で「2. 相談しなかった」と答えた方にお聞きします。どこ（誰）にも相談しなかったのはなぜですか。次の中からあてはまるものすべてを選んで○印をつけてください。

「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が54.3%と最も高く、次いで「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」の割合が22.9%となっている。

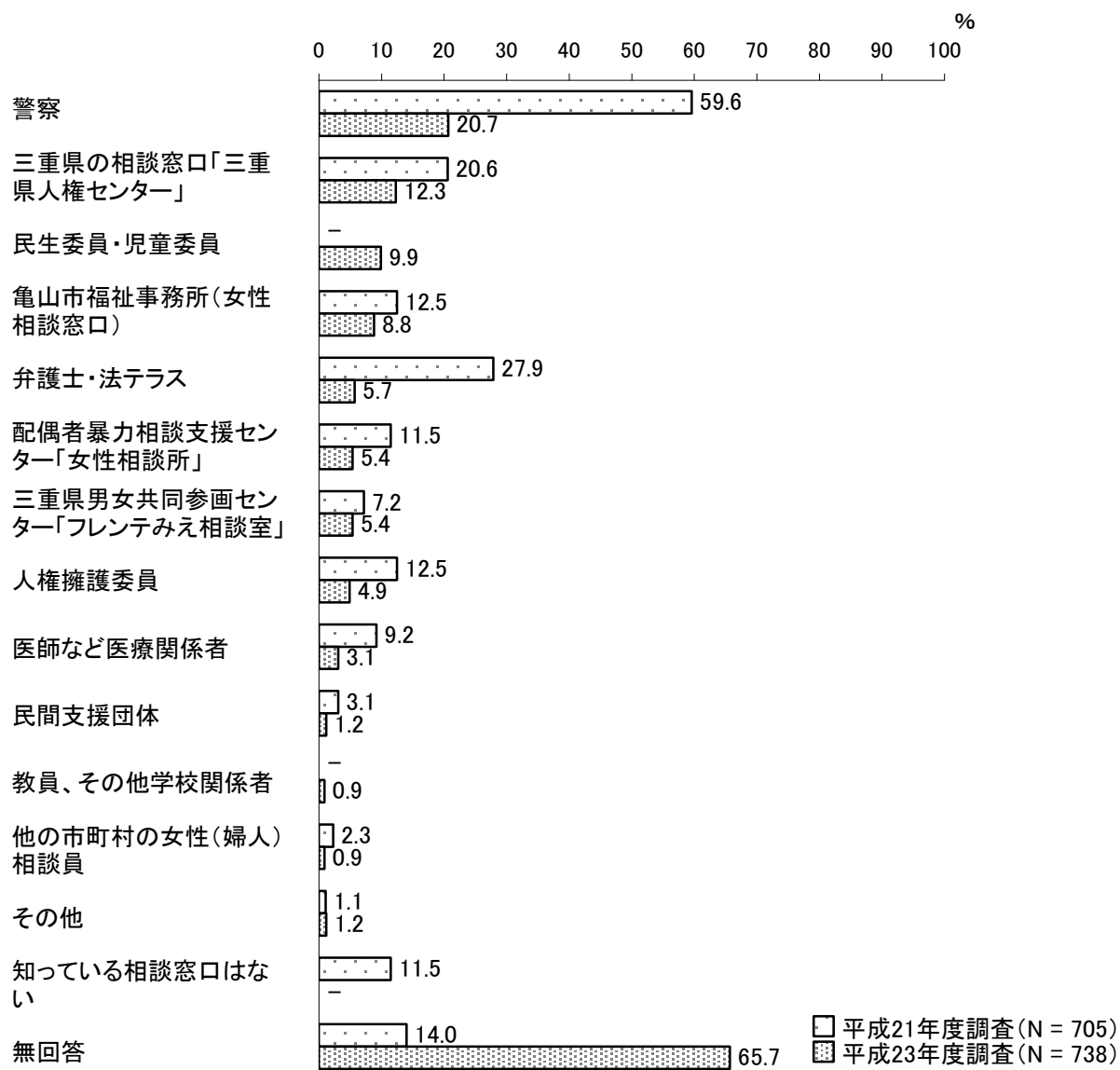
前回調査結果と比較すると、「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」の割合が低くなっている。



問25. 配偶者やパートナーから暴力を受けたときに相談できる機関や関係者などの窓口のなかで、そのような相談ができることを知っていたものについて、次の中からあてはまるものすべてを選んで○印をつけてください。

「警察」の割合が20.7%と最も高く、次いで「三重県の相談窓口「三重県人権センター」」の割合が12.3%、「民生委員・児童委員」の割合が9.9%となっている。

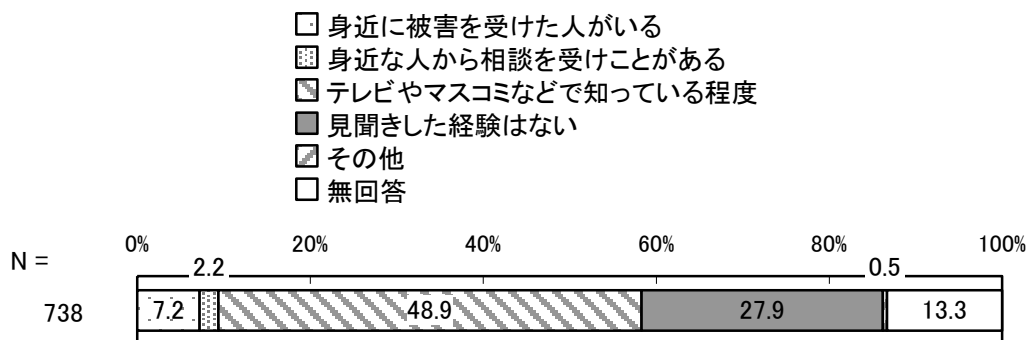
前回調査結果と比較すると、「警察」「三重県の相談窓口「三重県人権センター」」「弁護士・法テラス」「配偶者暴力相談支援センター「女性相談所」」「人権擁護委員」の割合が低くなっている。なお、平成23年度調査では「無回答」が65.7%となっている。



※平成21年度調査には「教員、その他学校関係者」「民生委員・児童委員」の回答項目はありません。また、平成23年度調査には「知っている相談窓口」の回答項目はありません。

問26. あなたは、配偶者や恋人等からの暴力を見聞きした経験はありますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

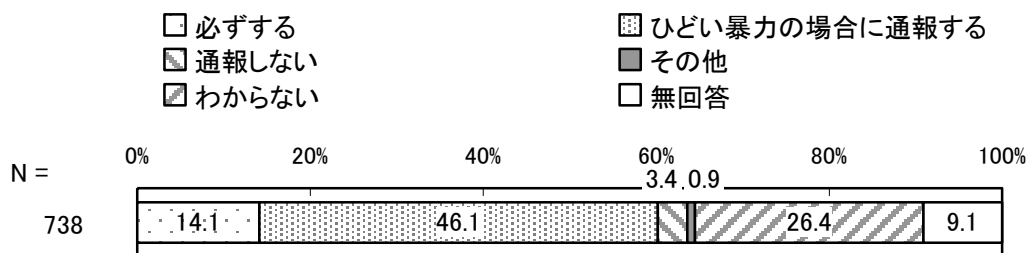
「テレビやマスコミなどで知っている程度」の割合が48.9%と最も高く、次いで「見聞きした経験はない」の割合が27.9%となっている。一方、「身近に被害を受けた人がいる」の割合が7.2%となっている。



※平成21年度調査には該当設問はありません。

問27. あなたは、暴力を受けている人を発見したとき、通報しますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

「ひどい暴力の場合に通報する」の割合が46.1%と最も高く、次いで「わからない」の割合が26.6%となっている。一方、「必ずする」の割合が14.1%となっている。

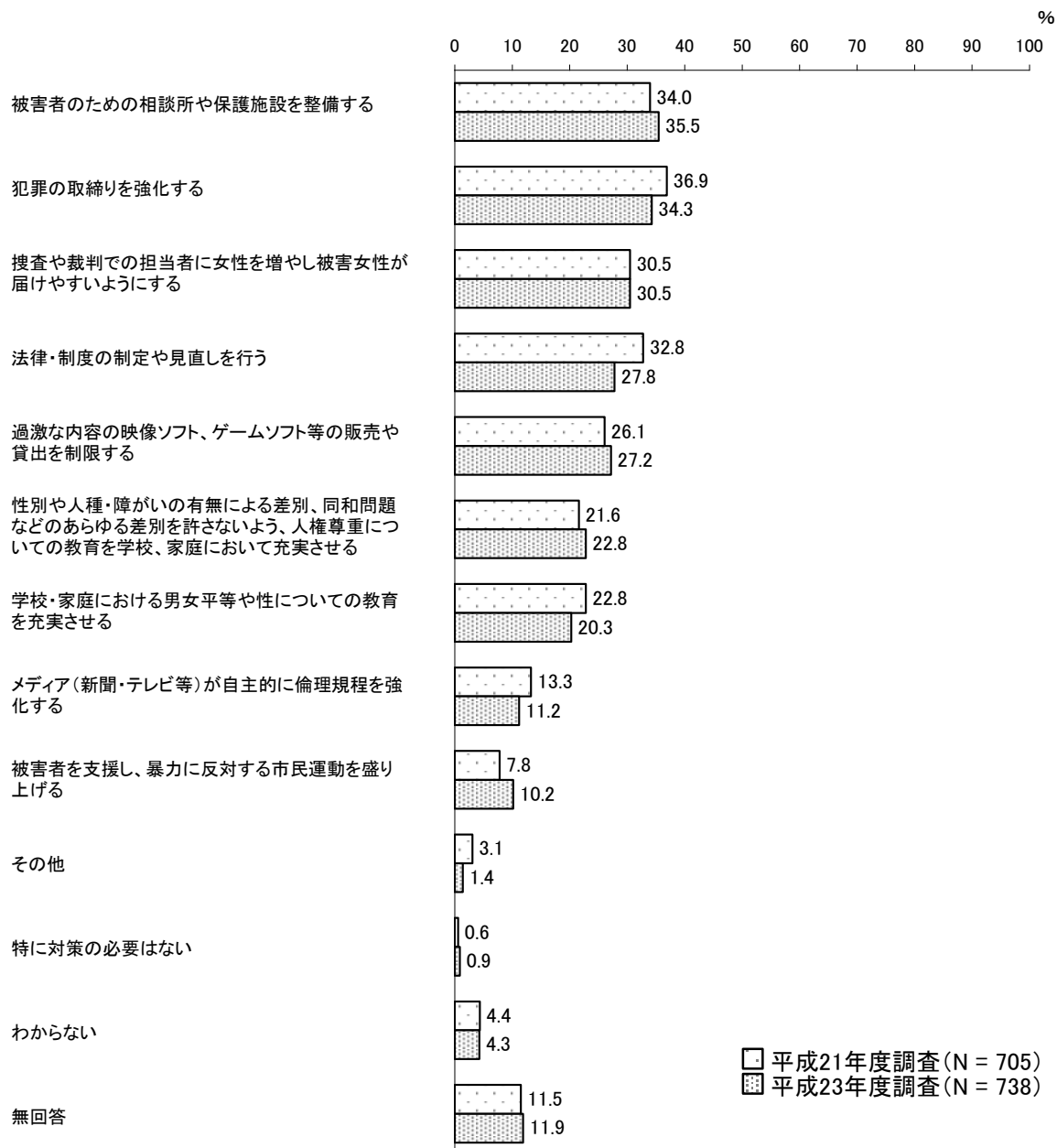


※平成21年度調査には該当設問はありません。

問28. 近年において、性犯罪や売買春（いわゆる「援助交際」を含む）、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント等についての関心が高まっていますが、このようなことをなくすためにはどうしたらよいと思いますか。次の中から主なものを3つまで選んで○印をつけてください。

「被害者のための相談所や保護施設を整備する」の割合が35.5%と最も高く、次いで「犯罪の取締りを強化する」の割合が34.3%、「捜査や裁判での担当者に女性を増やし被害女性が届けやすいようにする」の割合が30.5%となっている。

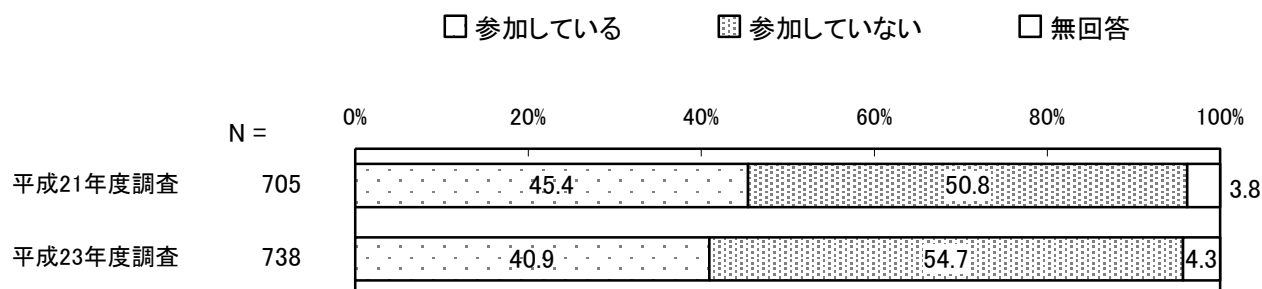
前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。



(10) 社会参加について

問29. あなたは現在、地域における社会活動に参加していますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

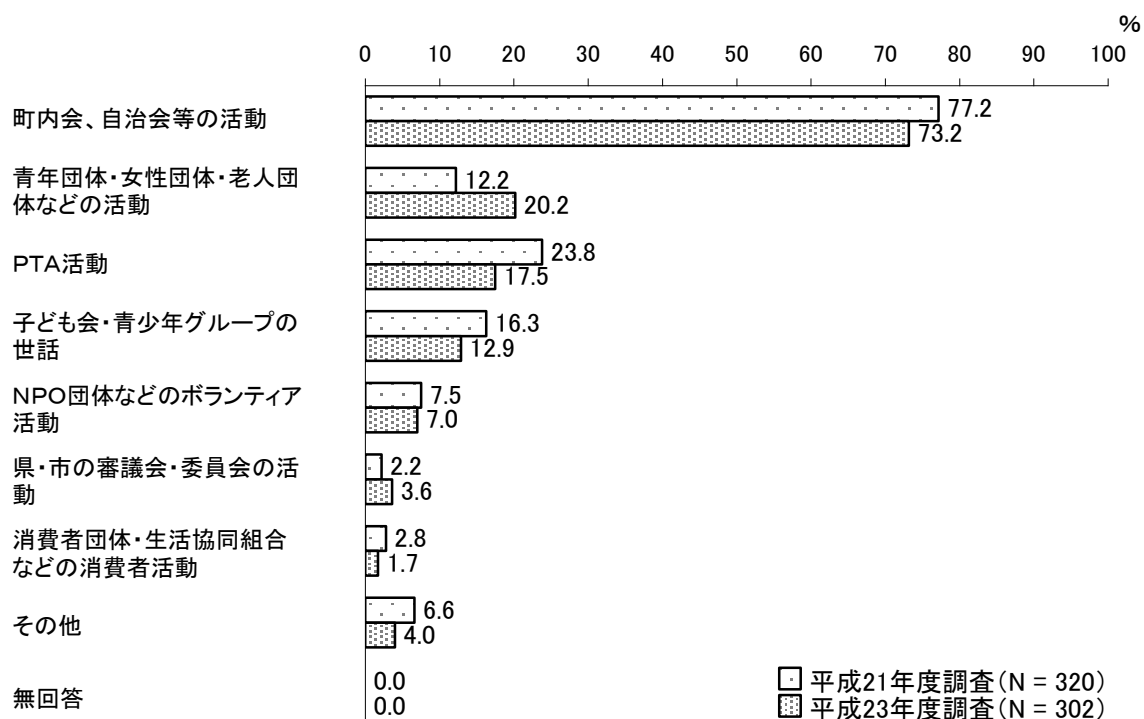
「参加している」の割合が40.9%、「参加していない」の割合が54.7%となっている。前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。



問29-1. 問29で「1. 参加している」と答えた方にお聞きします。あなたが参加している社会活動はどのようなものですか。次の中からあてはまるものすべてを選んで○印をつけてください。

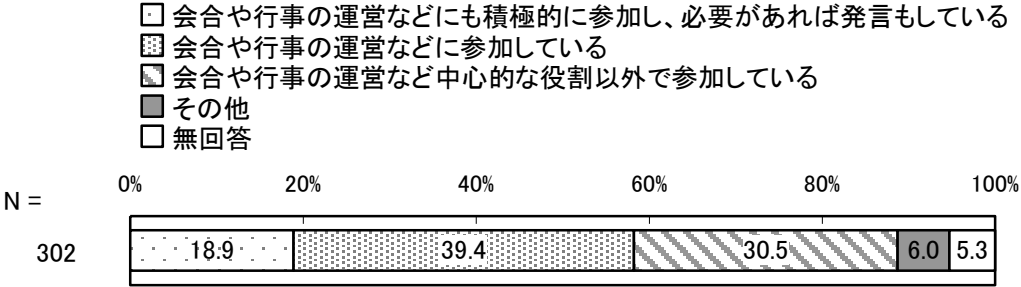
「町内会、自治会等の活動」の割合が73.2%と最も高く、次いで「青年団体・女性団体・老人団体などの活動」の割合が20.2%、「PTA活動」の割合が17.5%となっている。

前回調査結果と比較すると、「青年団体・女性団体・老人団体などの活動」の割合が高く、「PTA活動」の割合が低くなっている。



問29-2. 問29で「1. 参加している」と答えた方にお聞きします。あなたはどのように社会活動に参画していますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

「会合や行事の運営などに参加している」の割合が39.4%と最も高く、次いで「会合や行事の運営など中心的な役割以外で参加している」の割合が30.5%、「会合や行事の運営などにも積極的に参加し、必要があれば発言もしている」の割合が18.9%となっている。

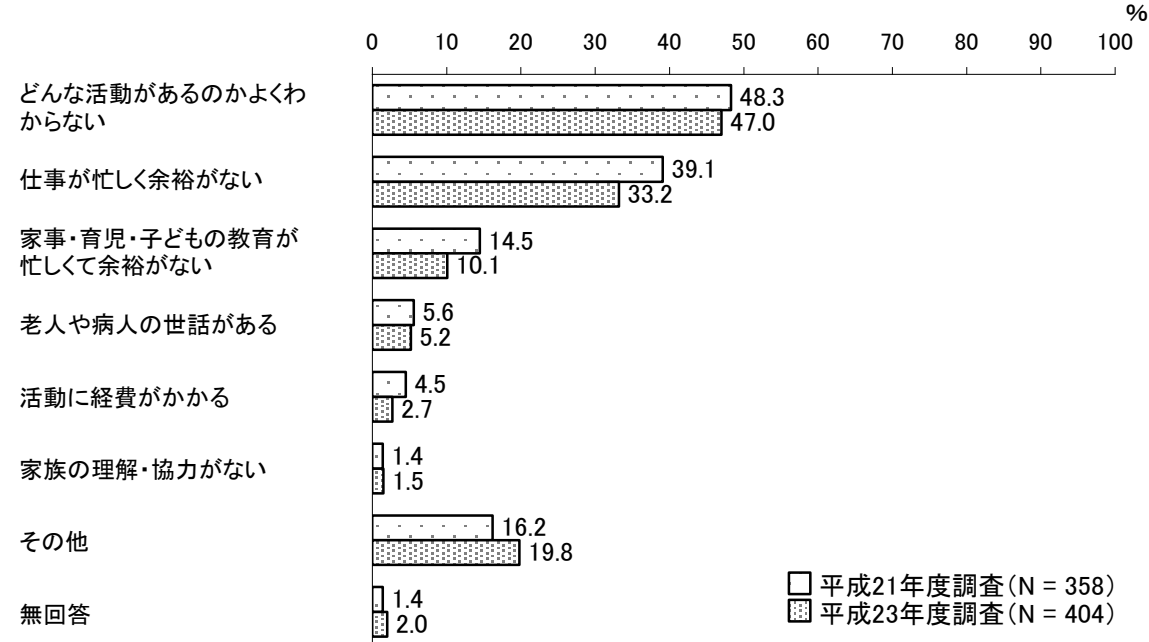


※平成21年度調査には該当設問はありません。

問29-3. 問29で「2. 参加していない」と答えた方にお聞きします。社会活動に参加していない理由は何ですか。次の中からあてはまるものすべてを選んで○印をつけてください。

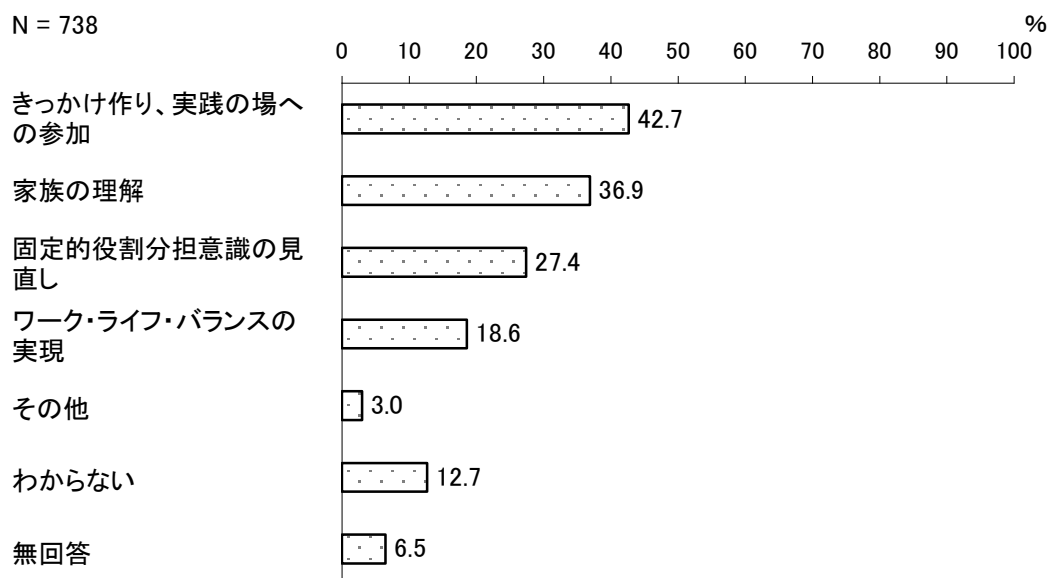
「どんな活動があるのかよくわからない」の割合が47.0%と最も高く、次いで「仕事が忙しく余裕がない」の割合が33.2%、「家事・育児・子どもの教育が忙しくて余裕がない」の割合が10.1%となっている。

前回調査結果と比較すると、「仕事が忙しく余裕がない」の割合が低くなっている。



問30. あなたは自治会や地域団体など、地域社会において、女性が活躍していくために必要なことは何だと思えますか。次の中からあてはまるものすべてを選んで○印をつけてください。

「きっかけ作り、実践の場への参加」の割合が42.7%と最も高く、次いで「家族の理解」の割合が36.9%、「固定的役割分担意識の見直し」の割合が27.4%となっている。



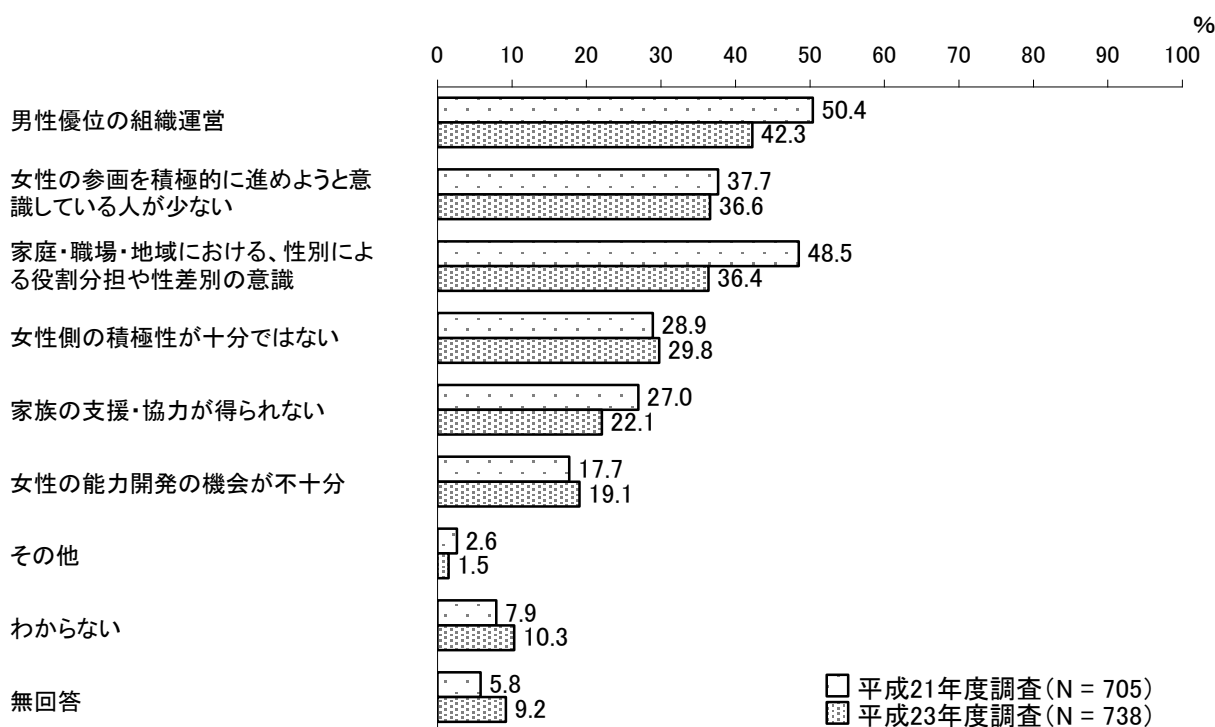
※平成21年度調査には該当設問はありません。

(11) 男女共同参画社会の実現に向けた取り組みについて

問3 1. 政治や行政における、政策の企画や方針決定の過程への女性の参画は、徐々に改善はされているものの、依然として少ないのが現状です。あなたは、このような女性の参画が少ない状況は何が原因だと思いますか。次の中から主なものを3つまで選んで○印をつけてください。

「男性優位の組織運営」の割合が42.3%と最も高く、次いで「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」の割合が36.6%、「家庭・職場・地域における、性別による役割分担や性差別の意識」の割合が36.4%となっている。

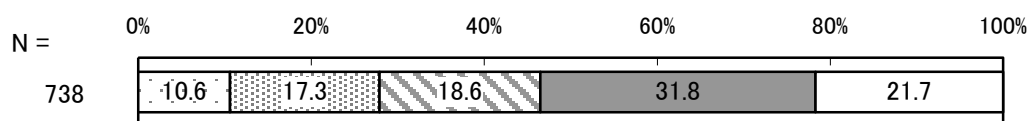
前回調査結果と比較すると、「男性優位の組織運営」「家庭・職場・地域における、性別による役割分担や性差別の意識」の割合が低くなっている。



問32. あなたは職場などの組織における重要な方針の決定過程に関わっていますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

「関わりたいと思っておらず、実際も関わっていない」の割合が31.8%と最も高く、次いで「関わりたいと思っているが、実際には関わっていない」の割合が18.6%、「関わっているが、十分ではない」の割合が17.3%となっている。

- 十分関わっている
- 関わっているが、十分ではない
- 関わりたいと思っているが、実際には関わっていない
- 関わりたいと思っておらず、実際も関わっていない
- 無回答



※平成21年度調査には該当設問はありません。

問33. 男女共同参画社会を実現するために、今後、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から主なものを3つまで選んで○印をつけてください。

「保育、介護の施設やサービスを充実する」の割合が38.8%と最も高く、次いで「女性を政策決定の場に積極的に登用する」の割合が27.9%、「男女共同参画社会をめざした法律・条例・制度の制定や見直しを行う」の割合が26.2%となっている。

前回調査結果と比較すると、「保育、介護の施設やサービスを充実する」の割合が低くなっている。

